

M-6-1-19

資料名 昭和九年度事業報告書

出所 日滿實業協會

作成年 19351220

寄贈者 編者

受入

注記 152P 22×15cm



昭和十年十二月

昭和九年度事業報告書

日滿實業協會

寄附
日滿實業協會
年 月 日

昭和九年度日滿實業協會事業報告書 目次

本部

第一 概 説 一

第二 創 立 四

一、日滿實業懇談會に於ける協會設立の決議 四

二、準備委員會 六

(一) 第一回委員會 六

(二) 第二回委員會 八

三、創立總會 一一

第三 會 議 一六

一、第二回會員總會 一六

二、第一回評議員會……………二五

三、理事會……………二九

 (一) 第一回理事會……………二九

 (二) 第二回理事會……………三五

 (三) 第三回理事會……………三七

 (四) 第四回理事會……………四二

 (五) 第五回理事會……………四五

 (六) 第六回理事會……………四八

 (七) 第七回理事會……………五〇

四、第一回幹事會……………五四

第四事 業……………五五

一、會員の勸誘……………五五

二、日滿經濟提携に關する建議、陳情、要望、決議、意見……………五九

(一) 滿洲大豆市價慘落對策に關する件……………五九

(二) 濠洲小麥粉滿洲ダムピング防止對策に關する件……………六〇

(三) 對滿輸出綿布染色工業の保護獎勵に關する件……………六五

(四) 滿洲産林檎内地輸入禁止令對策に關する件……………六八

(五) 滿洲國私設鐵道助成法制定に付要望の件……………六九

(六) 滿洲國に興業金融機關設置方陳情に關する件……………七〇

(七) 滿洲移住獎勵に關し陳情の件……………七一

三、商工視察の斡旋……………七二

 (一) 大連市泰東日報社及滿洲國協和會共同主催本協會後援の内地商工視察團斡旋……………七二

 (二) 滿洲支部主催第二次訪日商工視察團斡旋……………七二

四、懇談會……………七二

 (一) 第一回懇談會……………七二

 (二) 第二回懇談會……………七四

 (三) 第三回懇談會……………七五

 (四) 第四回懇談會……………七六

五、講話會

- (一) 第一回講話會 八四
- (二) 第二回講話會 八四
- (三) 第三回講話會 八五
- (四) 第四回講話會 八五
- (五) 第五回講話會 八六
- (六) 第六回講話會 八六
- (七) 第七回講話會 八七
- (八) 第八回講話會 八八
- (九) 第九回講話會 八八
- (一〇) 第十回講話會 八九
- (一一) 第十一回講話會 九〇

- (五) 第五回懇談會 七八
- (六) 第六回懇談會 八〇
- (七) 第七回懇談會 八一

六、調査

- (一) 大豆暴落對策、鐵道運賃、關稅問題に關する調査 九〇
- (二) 北鮮連絡商港としての裏日本諸港灣の調査 九〇

七、報告會

- 第一回報告會 九一
- 第二回報告會 九二
- 第三回報告會 九二
- 第四回報告會 九二
- 第五回報告會 九二
- 第六回報告會 九二
- 第七回報告會 九二
- 第八回報告會 九二
- 第九回報告會 九三
- 第十回報告會 九三

八、刊行物の頒布 九三

第五 庶務

一、滿洲帝國 皇帝陛下奉迎に關する件	九五
二、會則改正に關する件	九六
三、事務開始	九六
四、文書收發件數	九七
五、祝辭祝電に關する件	九七
六、弔詞見舞等に關する件	九七
七、出張に關する件	九八
八、招待歡迎に關する件	一〇〇
九、役員及幹事異動に關する件	一〇一
一〇、其 他	一〇四

第六 會計

一、昭和九年度收支豫算	一〇五
二、昭和九年度收支更正豫算及滿洲支部特別會計收支豫算、 昭和十年度收支豫算、昭和十年度朝鮮支部支出豫算內譯	一〇六
三、昭和九年度本部及滿洲支部收支決算	一一二
四、補助金に關する件	一一三
(一) 昭和九年度南滿洲鐵道株式會社補助金	一一三
(二) 昭和十年度南滿洲鐵道株式會社補助金	一一三
五、會計監査に關する件	一一三

滿洲支部

第一 概 說

第二 會 議

第一 概 說	一一三
第二 會 議	一二五

理事會

第一回理事會 一三五

第二回理事會 一三〇

第三回理事會 一三二

評議員會

第一回評議員會 一三四

第三事業

一三六

一、商工視察團 一三六

(一) 第一次赴日商工視察團 一三七

(二) 第二次赴日商工視察團 一三七

二、刊行物の頒布 一三七

(一) 日本印象記 一三七

(二) 滿文内外經濟情報 一三七

(三) 滿洲國人商工名錄 一三八

三、陳情 一三八

第四庶務

一三九

一、事務開始 一三九

二、文書收發件數 一三九

三、祝辭等に関する件 一四〇

四、弔詞、見舞等に関する件 一四〇

五、出張に関する件 一四〇

役員

役員 一四三

昭和九年度日滿實業協會事業報告書

本 部

第一 概 説

本協會の創立は昭和八年十一月十八日にして同年十二月一日より事務を開始し昭和九年三月に至る八年度に屬する五ヶ月間の諸経費は昭和九年度経費を以て支辨せり、夫等の關係より本昭和九年度事業報告には、便宜昭和八年十一月以降同十年三月に至る凡そ十七ヶ月間の事項を収録したり。

本協會の設立に就ては昭和八年八月大連市主催滿洲大博覽會を機として開催されたる日滿實業懇談會に於て「日滿實業協會創設」の件が滿場一致可決されたるに胚胎するものなるを以て創立總會に至る過程をも附記する事とせり。

本協會は主として日本側に於ては商工會議所、滿洲國側に在りては商會、工會の代表者に依り發起設立されたるものなるも猶銀行會社其他一般有志の賛同を得るにあらざれば所期の目的を達成し難き事情あり、依て今期當初即ち昭和八年十二月事務開始以後の數ヶ月間に於ては専ら會員勧誘に努めたり。その結果昭和十年三月末現在に於ける會員數左の如く増加せり。

商工會議所	一〇〇件	二五五。
商會	一〇七	一七三
協會	二五	三〇
組	一八	二七
法	四四七	一、五六八
個	二八五	三五一
合計	九八二	二、四〇四

本協會の進み方は努めて空論を避け實效を収むるを要旨とせり、從て文書に現はすに至らざる事項も又尠なしとせざるも、その文書に記録されたる今期間に於ける事業としては會議回数十三回、議事件數一三七件にして其の主なるものとしては

- (一) 滿洲帝國 皇帝陛下御即位に對し慶祝に關する件
- (二) 滿洲帝國 皇帝陛下御訪日奉迎に關する件
- (三) 滿洲大豆暴落對策に關する件
- (四) 濠洲小麥粉滿洲ダムピング防止對策に關する件
- (五) 滿洲産林檎内地輸入禁止令撤廢方に關する件
- (六) 滿洲國私設鐵道助成法制定方に關する件

- (七) 滿洲國に興業金融機關設置方に關する件
- (八) 滿洲移住獎勵に關する件

等とす。滿洲大豆暴落對策に就ては事態重大なるものありとして昭和九年四月特に後崎常任幹事を滿洲現地に派遣調査せしめ滿洲支部とも相呼應し慎重審議を重ね應急對策と恒久對策の二段構を以て善處しつゝありたる處同年夏季より秋季に互りて事情一變し、滿洲特産の對獨、對支輸出狀況の好轉、市價の恢復に連れ應急對策問題は幸ひにも自然解決を告ぐるに至れり。而してその恒久對策としては主として鐵道運賃、通貨、關稅の三問題に主力を傾注することゝなれり。濠洲小麥粉のダムピング對策に關しては遂に製粉會社の進出を見るに至れり。滿洲産林檎の内地輸入禁止に對しては輿論漸く囂しく昭和九年十二月内地輸入解禁の發令を見たり。又滿洲國私設鐵道法は康徳二年即ち昭和十年九月五日愈々發令となり、滿洲國興業金融機關の設置に關しては從來議論の域を脱せざる憾ありしが今や滿洲に於ける時事問題として識者の注目する所となりたるが如し。次に又滿洲移住獎勵に就ては近く滿洲拓殖會社及び滿洲移住協會の設立を見んとするの狀勢にあり。

猶其他の事業として日滿産業經濟に關する調査資料の編纂、講演録事等を刊行すること二十七回、懇談會、講話會を開催すること前後十八回に及び滿洲經濟事情の普及宣傳に努めたり。

創立當初本協會の役員は創立總會に於て銓衡委員に一任せられたる結果、同日直に先づ會長、副會長、理事、監事三十四氏の選任を行ひ、其後理事會に於ける銓衡を経たる上昭和九年六月十九日附大阪商工會議所會頭稻畑勝太郎氏外六

十九氏、同八月十五日附大連市商會會長張本政氏外六十九氏を評議員に推舉したり。

次に昭和九年十一月の第一回評議員會に於ては會則を改正すると同時に、第二回會員總會に於て昭和十年年度豫算案の通過を計り昭和十年四月一日朝鮮支部を開設したり。又今期に於ける文書收發件數は受信二、六五一件、發信一、〇五九件に達し、會費收納狀況又頗る良好にして昭和十年三月末現在滿洲支部を除き會員數六百二十二名、會費負擔口數千八百九十三口、此の金額參萬七千八百六拾圓也に對し金參萬七千貳百八拾圓也を收納し、金五百八拾圓也未收ありしも、其後過年度收入として其の大部分を收納し殘額百六拾圓のみとなれり。

本協會の豫算は創立當時滿洲支部を合し總計金壹萬八千五百圓也なりしも、年度半にして更正豫算を編成し滿洲支部特別會計國幣壹萬圓也を通算し六萬貳千壹百四拾圓九拾六錢也は昭和九年十一月の第二回會員總會の承認を経たり。而してその決算額は金五萬七千七百四拾參圓六拾八錢となれり。是れ本協會が昭和九年度に消費したる全經費にして金八千八百參圓七拾參錢を次年度に繰越せり。

第二創 立

一、日滿實業懇談會に於ける協會設立の決議

時恰も昭和八年夏、大連市主催滿洲大博覽會が大連に開設され滿洲建國の大業を記念すると共に、滿蒙の實相を普く紹介せんことを期したり。然るに、同博覽會を協賛する爲め大連商工會議所を中心として滿洲大博覽會協賛會が設立せ

られ、博覽會が前記の目的を達成し萬全の成果を收むべく滿洲國政府を首めとし關東軍、大使館、領事館、關東廳及び滿鐵會社其の他各方面の深甚なる後援の下に最も有意義なる日滿實業懇談會が計畫され、日本に於ける商工會議所、滿洲國各商會並に日滿兩國主要都市の贊同を得て、八月十五日より向ふ三日間大連市彌生高等女學校に於て、日滿實業家總動員とも稱すべき四百名に達する大懇談會開催されたり。

其の席上日本商工會議所より滿洲國經濟建設協力に關する建議案が提出され、興業銀行總裁結城豐太郎氏に依つて其の理由が説明され、兩國經濟不可分の關係誠に密接なるを痛感し、茲に協同一致滿洲國經濟建設の爲に一層努力せんことを期す」と決議され、以て非常時局に對處せんとするの態度を示されたり。

他方東京商工會議所に在りては、更に其の具體的方策として此の機會に日滿實業協會なるものを創設するの必要を認め、即ち日滿經濟の提携は兩國百年の大計に基き一般民衆の福利増進を第一主義となすべく、之が爲には兩國長短相補ひ有無相通じ共存共榮の原則を基調とすべきこと素よりなるが、猶一面既存事業及び之れに依存する各階級に及ぼす影響に就ても相當の考慮を拂はざるべからず。是等凡百の事項に對する緩急得失に就いては頗る複雑微妙なるもの存するが故に、茲に特殊の機關を新設し廣く適材を兩國の朝野に求め、正理と經驗とに基きて剴切明快なる方策を立案審議するの要あり、而して其の機關の組織は現存せる各種指導機關の意見を統一し、各方面の國論を反映するものならざるべからず。從て形式に拘泥することを避け新鮮味の横溢したる實質的計畫機關たることを必要とすべし。此の點に於て從來の調査會と其の趣を異にし、實行的權威あらしむる爲め、其の成案に對しては兩國政府は出來得る限り之を採擇し、

苟も採擇したる場合は官民一致協力して直ちに之を實行に移すべきものなり云々と、副會頭中野金次郎氏に依つて説され、滿場一致可決、十九名の準備委員を座長より指名されたるものなり。

二、準備委員會

(一) 第一回委員會

かくて、創立に關する具體案を審議する爲め、發起委員會を八月十六日午後三時より大連市協和會館に於て開會し、結城豐太郎氏を委員長に互選し、審議を爲したる結果左の通り決定したり。

一、別紙日滿實業協會設立案に對し、之が賛否並に修正意見あらば、十月十五日迄に日本商工會議所迄申出を乞ふこと、但し滿洲側の意見は大連商工會議所に於て取纏めを乞ふこと。

而して是等の意見を取纏めたる上本年十一月日本商工會議所定期總會の前後に東京に於て創立總會を開くこと。

「別紙」日滿實業協會(案)

目的

日滿兩國における商業、工業、鑛業、金融、運輸業等に關し十分なる連絡協調を保持し、兩國の關係を緊密ならしむるを以て目的とす

組織

日滿兩國商業、工業、鑛業、金融、運輸業其の他の關係者を以て組織す(日本側は日本商工會議所、朝鮮商工會議所、臺灣實業協會、樺太商工會議所聯合會等より、滿洲側は商工會議所、商會聯合會、滿鐵等より推薦したる者並に其の他の有力者を以て組織す)

事務所

本部を東京日本商工會議所に、支部を滿洲に置く

役員

會長一名、副會長二名、理事若干名を置く

經費

經費は日滿兩國實業關係者の分擔とす(差當り基金制を設けず口數制度に依り關係の厚薄に應じ適宜に數を割當て、寄附を受くるものとす)

事業

- 一、産業經濟に關する通報
- 二、産業經濟に關する仲介又は斡旋
- 三、産業經濟に關する調停又は仲裁
- 四、産業經濟に關する統計の調査及其等の編纂

五、産業經濟に關し政府に對する建議
六、産業經濟に關し政府の諮問に對する答申

出席者

東京商工會議所常議員	結城豐太郎氏	東京商工會議所副會頭	中野金次郎氏
大阪商工會議所副會頭	片岡安氏	名古屋商工會議所會頭	岡谷惣助氏
神戸商工會議所理事	福本義亮氏	京都商工會議所理事	平田慶吉氏
横濱商工會議所理事	園田寛氏	朝鮮商工會議所會頭	賀田直治氏
臺灣總督府殖産局商工課	山口重雄氏	青島日本商工會議所副會頭	田邊郁太郎氏
哈爾濱日本商工會議所會頭	加藤明氏	大連商工會議所會頭	高田友吉氏
奉天商工會議所會頭	庵谷忱氏	新京商工會議所會頭	永原岩雄氏
大連市商會會長	張本政氏	哈爾濱市商會代理主席	穆文煥氏
奉天全省商會聯合會會長	方焜恩氏	吉林總商會代表	沈玉和氏
黑龍江省全省商會聯合會會長	張書山氏		

(二) 第二回委員會

昭和八年十一月十七日東京商工會議所に於て第二回委員會開催、東京商工會議所中野副會頭座長に推され左記事項が

協議されたり。

- 一、日滿實業協會々則
 - 二、日滿實業協會經費收支豫算
 - 三、日滿實業協會役員選任に關する件
 - 四、日滿實業協會創立總會プログラムに關する件
- 右の中第一項及第二項に就きて創立總會に提出すべき原案を決定し、第三項に就きては中野座長外東京、横濱、名古屋、京都、大阪、神戸、朝鮮、新京、奉天、大連、哈爾濱の各商工會議所代表者を小委員に擧げ、之に滿洲國實業部工商司長孫激氏臨席せられ、會長、副會長、理事、常務理事、監事等創立總會に提案すべき役員の銜衡を爲し、次で第四項を協議決定さる。

出席者 (順序不同)

滿洲國實業部工商司長	孫激氏	駐日滿洲國公使館主事	孫錯氏
滿洲國實業部工商司囑託	阿部菅一氏		
委員			
和歌山商工會議所會頭	前田辰之助氏	朝鮮商工會議所會頭	賀田直治氏
京城商工會議所會頭	賀田直治氏	京城商工會議所副會頭	平井熊三郎氏
豐橋商工會議所會頭	神野三郎氏	福島商工會議所會頭	油井德藏氏

新京商工會議所副會頭	石崎廣治郎氏	函館商工會議所會頭	岡本康太郎氏
高田商工會議所會頭	玉井義太郎氏	長崎商工會議所會頭	脇山啓次郎氏
博多商工會議所會頭	太田勘太郎氏	鹿兒島商工會議所會頭	久米田新太郎氏
松山商工會議所副會頭	堀内胖次郎氏	横濱商工會議所副會頭	中川末吉氏
哈爾濱日本商工會議所會頭	加藤明氏	朝鮮商工會議所理事	伊藤正憲氏
京城商工會議所理事	伊藤正憲氏	奉天商工會議所會頭	庵谷忱氏
豐橋商工會議所理事	鈴木澄衛氏	福島商工會議所理事	船尾元吉氏
函館商工會議所理事	小林貞一氏	長崎商工會議所理事	鈴木包教氏
博多商工會議所理事	長田義彦氏	鹿兒島商工會議所理事	堀勇吉氏
松山商工會議所理事	山本孟六氏	横濱商工會議所理事	園田寛氏
名古屋商工會議所會頭	岡谷惣助氏	大阪商工會議所副會頭	安宅彌吉氏
京都商工會議所理事	平田慶吉氏	東京商工會議所副會頭	中野金次郎氏
日本商工會議所理事	渡邊鍊藏氏	秋田商工會議所理事	小貫太郎氏
富山商工會議所理事	大間知圓兵衛氏	廣島商工會議所理事	橋本種次郎氏
大連商工會議所書記長	長永義正氏	松江商工會議所理事	太田直行氏

名古屋商工會議所理事	三浦一氏	大阪商工會議所理事	高柳松一郎氏
神戸商工會議所理事	福本義亮氏	東京商工會議所理事	渡邊鍊藏氏
長野商工會議所理事	今村清見氏	新潟商工會議所理事	塚野俊郎氏
小樽商工會議所理事	池田三平氏	栃木商工會議所理事	清水芳次郎氏
上海日本商工會議所會頭	米里紋吉氏	大連西崗商會代表代理	劉煥彦氏
奉天市商會	陳楚材氏	新京總商會代表	王荆山氏
大連市商會代表代理	王錫廷氏	奉天全省商會聯合會々々長	方煜恩氏
吉林省總商會會董	劉瑞氏	吉林省各縣商會隨員	王秉章氏
哈爾濱傳家甸商會代表	李明遠氏	熱河省各縣商會代表	王輔文氏
哈爾濱道外商會囑託	唐心冰氏	哈爾濱特別市道裏商會常務委員	唐乃辟氏
黑龍江省代表全省商會聯合會會長	徐欽覺氏	奉天全省商會聯合會及奉天市總商會秘書	片山滿城氏

三、創立總會

昭和八年十一月十八日恰も日本商工會議所定期總會の開會さるゝを機會とし、東京商工會議所に於て創立總會開かる。結城豊太郎氏推されて議長席に着き、續いて中野金次郎氏より、日滿實業懇談會に於ける決議より創立に至るまでの經過報告ありたる後會則、收支豫算を可決確定し、次いで役員の選挙は銓衡委員に一任、役員中評議員は會則第七條

により會員總會に於て選舉すべき筈なるも、更に會員を充實せしめ、後日開催さるべき理事會の銓衡に一任することとなり、夫れより來賓永井拓務大臣閣下の祝辭演說並に外務大臣、商工大臣、滿洲國丁公使の祝辭代讀あり、右終つて關東長官、關東軍特務部長、林滿鐵總裁、哈爾濱特別市々長、哈爾濱、朝鮮、京城各商工會議所よりの祝電披露ありて終了せり。

出席者 (順序不同)

臨席官

拓務大臣 永井柳太郎閣下

外務大臣秘書官 友田二郎殿

商工大臣秘書官 宮田忠雄殿

駐日滿洲國公使館參事官 原武殿

駐日滿洲國公使館 孫錯殿

會員

大連商工會議所會頭 高田友吉氏

門司商工會議所會頭 出光佐三氏

栃木商工會議所會頭 毛塚源藏氏

久留米商工會議所會頭 石橋徳次郎氏

大分商工會議所會頭 高田保氏

小倉商工會議所會頭 丸橋清平氏

哈爾濱日本商工會議所會頭 加藤明氏

京城商工會議所會頭 賀田直治氏

青森商工會議所會頭 藤林源右衛門氏

奉天商工會議所會頭 庵谷忱氏

郡山商工會議所會頭 太田三郎氏

戶畑商工會議所副會頭 金子慶藏氏

直方商工會議所會頭 野上辰之助氏

鶴岡商工會議所理事 三浦鶴林氏

佐世保商工會議所會頭 富田等平氏

岐阜商工會議所副會頭 梅田多平氏

金澤商工會議所會頭 中島徳太郎氏

長岡商工會議所會頭 鷲尾徳之助氏

豐橋商工會議所會頭 神野三郎氏

福島商工會議所會頭 油井徳藏氏

新京商工會議所副會頭 石崎廣治郎氏

函館商工會議所會頭 岡本康太郎氏

下關商工會議所會頭 林平四郎氏

酒田商工會議所會頭 荒木幸吉氏

甲府商工會議所會頭 細田武雄氏

高岡商工會議所會頭 室崎間平氏

釧路商工會議所副會頭 池田初太郎氏

直江津商工會議所會頭 高橋喜六氏

長崎商工會議所會頭 脇山啓次郎氏

仙臺商工會議所會頭 板垣金造氏

博多商工會議所會頭 太田勘太郎氏

博多商工會議所理事 長田義彦氏

鹿兒島商工會議所會頭 久米田新太郎氏

秋田商工會議所副會頭 三浦千代松氏

大津商工會議所會頭 西田利七氏

松山商工會議所副會頭 堀内胖治郎氏

宇治山田商工會議所會頭 西田周吉氏

敦賀商工會議所常議員 大崎喜藏氏

名古屋商工會議所會頭 岡谷惣助氏

京都商工會議所會頭 中野程二郎氏

大阪商工會議所副會頭	片岡安氏	東京商工會議所副會頭	鶴見左吉雄氏
東京商工會議所副會頭	中野金次郎氏	上海日本商工會議所會頭	米里紋吉氏
大連商工會議所書記長	長永義正氏	門司商工會議所理事	田中次郎氏
栃木商工會議所理事	清水芳次郎氏	久留米商工會議所理事	武田令太郎氏
大分商工會議所理事	遠藤醇氏	尾道商工會議所理事	小倉義一郎氏
朝鮮商工會議所理事	伊藤正愨氏	京城商工會議所理事	伊藤正愨氏
戶畑商工會議所理事代理	永沼恬平氏	直方商工會議所理事	田川靜男氏
富山商工會議所理事	大間知圓兵衛氏	佐世保商工會議所理事	須藤清馨氏
新潟商工會議所理事	塚野俊郎氏	岐阜商工會議所理事	藤井順太郎氏
金澤商工會議所理事	宮田治三郎氏	豐橋商工會議所理事	鈴木澄衛氏
米子商工會議所理事	安田千松氏	札幌商工會議所理事	岩田彥二郎氏
下關商工會議所理事	兄部謙輔氏	岡崎商工會議所理事	中野重義氏
酒田商工會議所理事	伊藤信成氏	岡山商工會議所理事	安田猪馬一氏
高田商工會議所理事	大塚與四郎氏	直江津商工會議所理事	藤本逸四郎氏
小樽商工會議所理事	池田三平氏	都城商工會議所理事	青井文治氏

長崎商工會議所理事	鈴木包教氏	長野商工會議所理事	今村清見氏
鹿兒島商工會議所理事	堀勇吉氏	秋田商工會議所理事	小貫太郎氏
橫濱商工會議所理事	園田寬氏	名古屋商工會議所理事	三浦一氏
京都商工會議所理事	平田慶吉氏	神戸商工會議所理事	福本義亮氏
大阪商工會議所理事	高柳松一郎氏	日本商工會議所理事	渡邊鍊藏氏
京城商工會議所副會頭	平井熊三郎氏	奉天商工會議所副會頭	向坊盛一郎氏
佐世保商工會議所副會頭	坂本昌二氏	下關商工會議所常議員	福田辨三氏
岡山商工會議所議員	近藤照一氏	神戸商工會議所議員	土岐市太郎氏
東京商工會議所議員	中川正左氏	東京商工會議所議員	本多貞次郎氏
東京商工會議所議員	廣瀬與兵衛氏	東京商工會議所議員	板倉安兵衛氏
東京商工會議所議員	三橋信三氏	東京商工會議所議員	伊藤精七氏
東京商工會議所議員	古谷精一氏	東京商工會議所議員	澁澤正雄氏
東京商工會議所議員	結城豐太郎氏	東京商工會議所議員	早川茂三氏
大連市商會代表代理	王錫廷氏	大連西崗子商會代表代理	劉煥彥氏
奉天全省商會聯合會會長	方煜恩氏	奉天市商會會長	陳楚材氏

吉林省總商會會董 劉 瑞氏
 新京市總商會秘書 王 秉 章氏
 哈爾濱傳家甸商會代表 李 明 遠氏
 熱河省各縣商會代表 王 文 輔氏
 奉天全省商會聯合會會長 片 山 滿 城氏
 奉天市總商會秘書

新京市總商會代表 王 荆 山氏
 哈爾濱道裡會代理 唐 紹 臣氏
 哈爾濱特別市道裏商會 常 務 委 員 唐 乃 辟氏
 黑龍江省代表商會 聯 合 會 會 長 徐 欽 覺氏
 哈爾濱道外商會囑託 唐 心 冰氏

第三會 議

一、第二回會員總會

出席者 (順序不同)

臨 席 官
 外務大臣代理 井 阪 豐 光閣下
 外務次官 黑 田 鴻 五殿
 商工大臣代理貿易局長 柳 井 恒 夫殿
 外務省東亞局第三課長 孫 錯殿
 滿洲國公使館秘書官

陸軍大臣代理調查部長 工 藤 義 雄閣下
 陸軍少將 副 島 勝殿
 陸軍省軍務課長 平 井 豐 一殿
 陸軍一等軍主計課

株式會社山叶商會社長 太 田 圭 助氏
 株式會社高瀨商店社長 高 瀨 富 三 郎氏
 京都商工會議所理事 森 口 繁 治氏
 濱松商工會議所理事 水 島 信 平氏
 合資會社日本鉛管製造所 清 水 晋 司氏
 代表 亞 煙 草 株 式 會 社 富 澤 充 氏
 專 務 取 締 役 山 崎 嘉 太 郎 氏
 日本賣藥株式會社社長 中 川 正 左 氏
 日滿亞麻紡織株式會社 取 締 役 會 長 吉 野 藤 一 郎 氏
 高崎商工會議所議員 油 井 德 藏 氏
 福島商工會議所會頭 丸 橋 清 平 氏
 小倉商工會議所會頭 出 光 佐 三 氏
 門司商工會議所會頭 中 部 幾 次 郎 氏
 下關商工會議所會頭 池 文 一 氏
 長岡商工會議所理事 山 地 土 佐 太 郎 氏

日本興業銀行總裁 結 城 豐 太 郎 氏
 日本興業銀行理事 公 森 太 郎 氏
 東京合同運送株式會社 專 務 取 締 役 三 橋 豐 吉 氏
 千代田毛織株式會社社長 角 田 晴 之 助 氏
 日本製紐株式會社 專 務 取 締 役 淺 井 辰 三 郎 氏
 日本自動車株式會社 社 長 石 澤 愛 三 氏
 日露實業株式會社社長 鈴 木 源 之 助 氏
 大倉商事株式會社社長 玉 木 誠 次 郎 氏
 尾道商工會議所會頭 鳥 居 哲 氏
 久留米商工會議所會頭 米 子 商 工 會 議 所 殿
 石 橋 德 次 郎 氏
 門司商工會議所理事 田 中 次 郎 氏
 宇治山田商工會議所理事 小 林 四 五 百 氏
 釜山商工會議所理事 上 田 耕 一 郎 氏
 株式會社新潟鐵工所殿

清水商工會議所理事	守屋文太郎氏	由岐潔治氏
岡崎商工會議所會頭	高田商工會議所殿	三浦善作氏
三井物產株式會社	近藤重三郎氏	太田勘太郎氏
株式會社鹿島組社長	大野敬信氏	森濱三郎氏
名古屋商工會議所會頭	鹿島精一氏	坂本政七氏
新潟商工會議所理事	岡谷惣助氏	三浦一氏
博多商工會議所理事	塚野俊郎氏	甲賀菊太郎氏
小樽商工會議所理事	盛岡商工會議所殿	貴志二彦氏
甲府商工會議所理事	長田義彦氏	和歌山商工會議所理事
三菱電機株式會社	友田孝治氏	松山商工會議所理事
株式會社三國商會社長	飯島英二氏	高知商工會議所會頭
京城商工會議所副會頭	松田清氏	金澤商工會議所理事
	田淵光春氏	國際通運株式會社社長
	土井誠一氏	朝鮮商工會議所會頭
	平井熊三郎氏	京城商工會議所理事
		伊藤正憲氏
		賀田直治氏
		青森商工會議所殿
		中野金次郎氏
		宮田治三郎氏
		野村茂久馬氏
		山本孟六氏
		甲賀菊太郎氏
		三浦一氏
		坂本政七氏
		森濱三郎氏
		太田勘太郎氏
		三浦善作氏
		由岐潔治氏

長崎商工會議所理事	鈴木包教氏	山形商工會議所會頭	蜂屋五郎兵衛氏
株式會社高尾鐵工所	土岐市太郎氏	新京商工會議所會頭	石崎廣治郎氏
代表取締役	鎌田藤右衛門氏	廣島商工會議所理事	橋本種次郎氏
福井商工會議所副會頭	竹島銀太郎氏	大連商工會議所會頭	高田友吉氏
朝鮮運送株式會社社長	長永義正氏	奉天商工會議所會頭	石田武彥氏
大連商工會議所理事	兒玉翠靜氏	三有公司主	庵谷忱氏
奉天商工會議所理事	中川末吉氏	橫濱商工會議所理事	園田寬氏
橫濱商工會議所副會頭	岡本康太郎氏	豐橋商工會議所理事	鈴木澄衛氏
函館商工會議所會頭	杉本榮男氏	岐阜商工會議所副會頭	河田貞次郎氏
熊本商工會議所理事	藤井順太郎氏	哈爾濱日本商工會議所	加藤明氏
岐阜商工會議所理事	日南田義治氏	株式會社三笠屋社長	蜂谷經一氏
第一製藥株式會社	鈴木忠治氏	奉天全省商會聯合會會長	方煜恩氏
東信電氣株式會社社長	邵慎亭氏	奉天省朝陽鎮商會會長	劉夢九氏
大連市商會副會長	施錢一氏	奉天省法庫縣商會會長	梁星午氏
奉天省東豐縣商會會長	蕭長安氏	大興公司董事長	王富海氏
奉天省通遼縣商會會長			

- | | | | |
|-------------|--------|-------------|----------|
| 益通銀行經理 | 田芝年氏 | 新京裕昌源製粉公司監察 | 王執理氏 |
| 新京裕昌源製粉公司經理 | 修昆璞氏 | 哈爾濱道裡商會常務委員 | 唐紹臣氏 |
| 義成永經理 | 趙俊甫氏 | 東和利副經理 | 王紹會氏 |
| 吉林全省商會聯合會會長 | 范象魁氏 | 吉林工務總會會長 | 傅昭魁氏 |
| 黑龍江省青岡縣商會會長 | 高連富氏 | 黑龍江省蘭西縣商會會長 | 王惠遠氏 |
| 熱河省赤峰縣商會副會長 | 胡燦氏 | 福順義經理 | 龐述孔氏 |
| 滿洲產業公司代表者 | 金井佐次氏 | 大阪商工會議所理事 | 高柳松一郎氏 |
| 東京商工會議所理事 | 木村増太郎氏 | 日本商工會議所主事 | 依田信太郎氏 |
| 大阪商工會議所會頭 | 森平兵衛氏 | 直江津商工會議所會頭 | 高橋喜六氏 |
| 函館商工會議所理事 | 小林貞一氏 | 戶畑商工會議所理事 | 永沼恬平氏 |
| 福井商工會議所理事 | 吉田耕造氏 | 日本東京商工會議所會頭 | 郷誠之助氏 |
| 廣島商工會議所會頭 | 山縣元兵衛氏 | 高松商工會議所會頭 | 畑溪宗次郎氏 |
| 敦賀商工會議所會頭 | 那須吉兵衛氏 | 敦賀商工會議所副會頭 | 宮崎相吉氏 |
| 長野商工會議所副會頭 | 松平安彦氏 | 鶴岡商工會議所副會頭 | 森田三郎左衛門氏 |
| 松本商工會議所副會頭 | 石井祐助氏 | 大津商工會議所副會頭 | 上田元治郎氏 |

- | | | | |
|------------|---------|------------|--------|
| 仙臺商工會議所理事 | 佐々木幸平氏 | 米子商工會議所理事 | 安田千松氏 |
| 秋田商工會議所理事 | 小貫太郎氏 | 鶴岡商工會議所理事 | 片岡録朗氏 |
| 佐賀商工會議所理事 | 西喜代市氏 | 直方商工會議所理事 | 田川靜男氏 |
| 久留米商工會議所理事 | 久富金作氏 | 若松商工會議所理事 | 佐藤茂氏 |
| 鹿兒島商工會議所理事 | 堀勇吉氏 | 長野商工會議所理事 | 今村清見氏 |
| 直江津商工會議所理事 | 藤本逸四郎氏 | 横須賀商工會議所理事 | 手島三郎氏 |
| 姫路商工會議所理事 | 今田榮次氏 | 尾道商工會議所理事 | 小倉義一郎氏 |
| 青森商工會議所理事 | 加勢清雄氏 | 高知商工會議所理事 | 川島保次郎氏 |
| 富山商工會議所理事 | 大間知圓兵衛氏 | 日魯漁業株式會社社長 | 窪田四郎氏 |
| 朝鮮銀行總裁席 | 前橋義雄氏 | 豐年製油株式會社社長 | 杉山金太郎氏 |
| 滿洲セメント株式會社 | 伊藤精七氏 | 東京商工會議所議員 | 早川茂三氏 |
| 取縮役 | 和田志良氏 | | |

昭和九年十一月三十日午後二時東京商工會議所に於て第二回會員總會を開催、郷會長議長席に着き開會の挨拶を述べたる後外務、陸軍、商工及拓務各大臣よりの祝辭代讀あり次で篠崎常任幹事より事務報告として

報告事項

一、自昭和八年十一月至同九年十月事務報告の件

右大要は印刷に附し文書として各員に交附しあるを以て之に依つて認せられたき旨述ぶる所あり。

二、副會長補缺選舉の件

前副會長大阪商工會議所會頭稻畑勝太郎氏同會議所會頭退任の事情により本會副會長をも辭任せられたるに付、昨日開催せる第一回評議員會に於て之が補缺選舉を行ひたる結果、現大阪商工會議所會頭森平兵衛氏當選せられたる旨報告。

三、理事一名補缺選舉の件

前理事奉天商工會議所會頭庵谷忱氏同會議所會頭を退任せられたる事情により本協會理事をも辭任せられたるに付、第一回評議員會に於て之が補缺選舉を行ひたる結果、現會頭石田武彦氏當選せられたる旨報告。

四、東京に理事五名増員選舉の件

會務の進捗上東京に理事五名増員の必要を認め第一回評議員會に於て之が選舉を行ふこととなるが、議長指名に一任となれるを以て追て指名あるべき旨報告。

五、朝鮮に常務理事一名設置の爲互選の件

明年四月より朝鮮支部開設の爲朝鮮に常務理事一名設置の必要を認むるに付、昨日の第四回理事會に於て互選を行ひたる結果、理事朝鮮商工會議所會頭賀田直治氏當選せられたる旨報告。

六、會則改正の件

右は昨日の第一回評議員會に於て左の通り改正されたる旨報告。

第三條 本會ハ本部ヲ東京ニ、支部ヲ新京及京城ニ置ク

第五條 本會ハ左ノ者ヲ以テ會員トス

一、日本商工會議所加入ノ商工會議所及之ニ準スル團體ニシテ本會ノ目的ニ賛スルモノ

二、滿洲國商會及工會ニシテ本會ノ目的ニ賛シ滿洲國實業部ノ許可ヲ受ケタルモノ

三、其ノ他日滿兩國公共團體、組合、銀行會社及個人ニシテ本會ノ目的ニ賛スルモノ

第十一條第一項 本會ノ經費ハ會費、補助金及寄附金收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

之に次で滿洲支部高田常務理事よりも同支部に於ける幹旋部設置の件、小麥種子無料配分の件、鐵道運賃引下方陳情の件、滿洲國政府補助金下附の件等に關して補足さるゝ所あり。次で

決議事項

一、朝鮮に評議員若干名増員選舉の件

右は投票を省略し其の員數及指名を議長一任となれる結果議長は後刻別項の通り十氏を指名し、次に

二、昭和九年度經費收支更正豫算案(會計事項参照)

三、昭和九年度滿洲支部特別會計收支豫算案(同上)

四、昭和十年度經費收支豫算案(同上)

の三件は高田常務理事及篠崎常任幹事より簡單なる説明あり、之に對して中川監事は會計監査の結果正確なるを認めたる旨報告を爲し滿場異議無く原案通り可決せり。最後に

五、日滿通貨統制に關し兩國政府に要望の件

六、滿洲國に於ける鐵道運賃統制に關する件

七、滿洲國私設鐵道助成法制定方要望の件

八、興業金融機關設置要望に關する件

九、滿洲移住獎勵に關する件

の五議案に就きて協議を進めたる處滿洲支部高田常務理事、石崎理事等より種々希望意見の開陳あり右議案は何れも其の關係する所廣く重要事項に屬するを以て更に深く攻究協議を重ねる爲五件を一括して理事會に一任することに決定議長の閉會の辭ありて終了す。時に午後三時三十分。

一、朝鮮に於ける追加評議員當選者

- | | | | |
|--------------|--------|------------|--------|
| 朝鮮殖産銀行取締役 | 有賀光豐氏 | 朝鮮銀行理事 | 松原純一氏 |
| 東洋殖産會社京城支社理事 | 田淵勳氏 | 朝鮮郵船株式會社社長 | 森辨次郎氏 |
| 朝鮮運送株式會社社長 | 竹島銀太郎氏 | 釜山商工會議所會頭 | 香椎源太郎氏 |

- | | | | |
|-------------|--------|-------------|-------|
| 朝鮮金融組合聯合會會長 | 矢鍋永三郎氏 | 朝鮮信託株式會社社長 | 谷多喜磨氏 |
| 朝鮮米倉會社社長 | 松井房治郎氏 | 朝鮮火災海上保險會社長 | 石川登盛氏 |
- 以上十名

二、第一回評議員會

昭和九年十一月二十九日午後三時
於東京商工會議所

出席者 (順序不同)

- | | | | |
|-------------|--------|------------------|--------|
| 門司商工會議所會頭 | 出光佐三氏 | 新京商工會議所會頭 | 石崎廣治郎氏 |
| 吉林全省商會聯合會會長 | 范象魁氏 | 奉天全省商會聯合會會長 | 方煜恩氏 |
| 哈爾濱道裡商會會長 | 唐紹臣氏 | 名古屋商工會議所會頭 | 岡谷惣助氏 |
| 黑龍江省總商會會長 | 王玉堂氏 | 朝鮮商工會議所會頭 | 賀田直治氏 |
| 大阪商工會議所副會頭 | 片岡安氏 | 大連商工會議所會頭 | 高田友吉氏 |
| 東京商工會議所副會頭 | 中野金次郎氏 | 日滿亞麻紡織株式會社取締役會會長 | 中川正左氏 |
| 日本興業銀行總裁 | 結城豐太郎氏 | 大連市商會會長 | 邵慎亭氏 |
| 京城商工會議所副會頭 | 平井熊三郎氏 | 日本石油會社社長 | 橋本圭三郎氏 |
| 函館商工會議所會頭 | 岡本康太郎氏 | 東亞煙草株式會社社長 | 金光庸夫氏 |

東洋拓殖株式會社總裁	高山長幸氏	大倉商事株式會社社長	玉木誠次郎氏
日魯漁業株式會社社長	窪田四郎氏	滿洲電信電話株式會社 總裁	山内靜夫氏
大倉鑛業株式會社 取締役會長	島岡亮太郎氏	安東商工會議所會頭	瀨之口藤太郎氏
京城商工會議所理事	伊藤正愨氏	大阪商工會議所理事	高柳松一郎氏
門司商工會議所理事	田中次郎氏	橫濱商工會議所理事	園田寬氏
新潟商工會議所理事	塚野俊郎氏	博多商工會議所理事	長田義彦氏
神戸商工會議所理事	福本義亮氏	奉天商工會議所理事	兒玉翠靜氏
京都商工會議所理事	森口繁治氏	東京商工會議所理事	木村増太郎氏
日本商工會議所主事	依田信太郎氏	廣島商工會議所副會頭	濱中延吉氏
鹿兒島商工會議所理事	堀勇吉氏	小樽商工會議所理事	友田孝治氏
哈爾濱道外商務會董事	趙汝賢氏	福順義經理	龐永銘氏
京都商工會議所副會頭	竹上藤次郎氏	函館商工會議所理事	小林貞一氏
新京市商會常務委員	田芝年氏	黑龍江省全省商會聯合會 會長	丁潤豐氏
奉天市商會祕書通譯	片山滿城氏	滿洲支部常任幹事	長永義正氏
常任幹事	篠崎嘉郎氏		

結城副會長議長席に着き評議決定せる事項左の如し。

報告事項

一、朝鮮に常務理事一名設置に關する件

朝鮮支部開設の爲常務理事一名設置することとなり第四回理事會に於て互選の結果左の通り決定を見たる旨報告あり承認。

常務理事

理事 朝鮮商工會議所會頭 賀田直治氏

決議事項

一、副會長補缺選舉の件

第四回理事會協議通り現大阪商工會議所會頭森平兵衛氏當選。

二、理事一名補缺選舉の件

第四回理事會協議通り現奉天商工會議所會頭石田武亥氏當選。

三、東京に理事五名増員選舉の件

投票省略、議長指名にて第四回理事會協議通り左の五氏當選。

三菱商事株式會社取締役會長 三宅川百太郎氏
大倉商事株式會社社長 玉木誠次郎氏

三井物産株式會社代表取締役 南條金雄氏
大同セメント株式會社社長 淺野良三氏

富士瓦斯紡績株式會社 鹿村美久氏

四、會則改正の件

會則第三條、第五條、第十一條第一項を左の通り改正す。

第三條 本會ハ本部ヲ東京ニ、支部ヲ新京及京城ニ置ク

第五條 本會ハ左ノ者ヲ以テ會員トス

一、日本商工會議所加入ノ商工會議所及之ニ準スル團體ニシテ本會ノ目的ニ賛スルモノ

二、滿洲國商會及工會ニシテ本會ノ目的ニ賛シ滿洲國實業部ノ許可ヲ受ケタルモノ

三、其ノ他日滿兩國公共團體、組合、銀行會社及個人ニシテ本會ノ目的ニ賛スルモノ

第十一條第一項 本會ノ經費ハ會費、補助金及寄附金收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

五、會員總會附議事項

左の諸件を總會議案として提出することに決定。

(イ)自昭和八年十一月至同九年十月事務報告

(ロ)朝鮮に評議員若干名増員の件

(ハ)昭和九年度經費收支更正豫算案(會計事項参照)

(ニ)昭和九年度滿洲支部特別會計收支豫算案(同上)

(ホ)昭和十年度經費收支豫算案(同上)

(ヘ)日滿通貨統制に關し兩國政府に要望の件(第十八回滿洲商工會議所聯合會提出)

(ト)滿洲國に於ける鐵道運賃統制に關する件(新潟商工會議所提出)

(チ)滿洲國私設鐵道助成法制定方要望の件(第十八回滿洲商工會議所聯合會提出)

(リ)興業金融機關設置要望に關する件(第十八回滿洲商工會議所聯合會提出)

(ヌ)滿洲移住獎勵に關する件(評議員會提出)

右の中(イ)より(リ)までは第四回理事會の決定通り決定し(ヌ)のみは新に本評議員會に於て追加決定。

三、理事會

(一)第一回理事會 昭和九年二月二十一日

出席者

副會長	日本興業銀行總裁	結城豐太郎氏
常務理事	東京商工會議所副會頭	中野金次郎氏
同	大阪商工會議所副會頭	片岡安氏
理事	富士興業株式會社社長	澁澤正雄氏

理事

新潟商工會議所會頭	白勢量作氏
朝鮮商工會議所會頭	賀田直治氏
京都商工會議所副會頭	竹上藤次郎氏
神戸商工會議所副會頭	榎並充造氏
博多商工會議所副會頭	木梨久太郎氏
廣島商工會議所副會頭	濱中延吉氏
新潟商工會議所副會頭	藤田儀平氏
博多商工會議所理事	長田義彦氏
神戸商工會議所理事	福本義亮氏
大阪商工會議所理事	高柳松一郎氏
名古屋商工會議所理事	三浦一氏
横濱商工會議所理事	園田寛氏
新潟商工會議所理事	塚野俊郎氏
京都商工會議所主事	小林美樹雄氏
日本商工會議所理事	渡邊鍊藏氏

常任幹事

篠崎嘉郎氏

報告事項

結城副會長座長席に着き開會の挨拶を述べたる後篠崎常任幹事より左の事項に就き報告あり承認。

一、創立費に關する件
本協會の會計年度を毎年四月一日より翌年三月三十一日迄とすれば今後入會さるゝ會員の會費は昭和九年度分として
收納するの外無かるべし。然るに創立費及昭和九年三月迄の事務費を概算するに約六、四〇〇圓となる旨報告。

二、會員勧誘に關する件
(イ)東京に於ける狀況

昨年十二月二十二日一般に勧誘狀發送。

爾來當方に於て豫め持口數を記入し前後三回に互りて發送。

第一回	一月二十六日	九〇通	五九六口
第二回	一月二十九日	一七五通	八〇七口
第三回	二月三日	三〇二通	七六一口
計		五六七通	二、一六四口

右勧誘狀に依る持口數二、一六四口に對し加入豫定數を四割減とせば一、二九九口となり今後の努力に依り大體千三
四百口の申込を受け得る見込なる旨報告。

(ロ)商工會議所に對する勸誘

一月三十日大體會議所の經費壹萬圓に對し一口の割合を以て勸誘狀發送の件

(ハ)東京以外の地方勸誘

1、各地商工會議所に五通乃至二十通の申込用紙其の他を添附し勸誘方依頼せり。

2、名古屋、京都、大阪、神戸、横濱には二月八日出發特に篠崎常任幹事出張勸誘方依頼せり。

三、會費收納狀況

(イ)會費拂込の便宜上振替口座(東京四五八〇二)に加入せり。此の振替に依る收納金二、一七〇圓也。

(ロ)東京に於ける加入者より直接拂込三、三一〇圓也。

(ハ)之に商工會議所の六五圓を加へて

合計 二八七〇 五、五四五圓

昨年十二月以後の諸支拂に充當する爲二月二十日金二、五〇〇圓也を支出せること。

殘餘の金額は篠崎常任幹事名義にて第一銀行に特別預金せること。

四、雜 件

(イ)一月十九日滿鐵會社に對し補助金五千圓也下附方懇請の件。

(ロ)一月二十日各地商工會議所百二十ヶ所に對し本協會の事業として左の三項を照會せる件。

一、弊協會の爲すべき事業として貴所の希望せらるゝもの

二、地方的問題にして弊協會が取扱ふを適當とするもの

三、中小商工業者の滿洲經濟に關する相談事務所開始に就ての御意見

(ハ)滿洲國協和會、大連泰東日報社共同主催日本商工視察團に關し二月三日日本協會の後援方依頼ありたるに依り、物質的には困難なるも其の他の點に於て後援すること異議なき旨回電せる件。

五、支部に於ける事務報告

滿洲支部より接受したる報告を謄寫して配布し、猶

1、賀表の始末に關し本部に一任され度旨申送り置きたる事情

2、一月十一日新京に於ける披露宴の費用に關し滿洲國より援助ありたること

3、滿洲インフレ政策に關する件及滿洲大拓殖銀行設置に關する件

に就て特に篠崎常任幹事より附言あり、三は暫く研究することゝなれり。

決議事項

一、協會當面の事業

協會に於て行ふべき事業としては會則第四條に五項目を明記しあるも猶當面の事業として左の七項目を擧ぐることに決定。

- (一) 日滿統制經濟に關する事項
 - (二) 日滿通商貿易の障害除去に關する事項
 - (三) 移民問題に關する事項
 - (四) 資料の蒐集通報に關する事項
 - (五) 日滿產業經濟に關する仲介、斡旋、調停又は仲裁、就中小商工業者の取引斡旋
 - (六) 滿洲產業經濟に關する實相の宣傳
 - (七) 日滿兩國國民の懇親融和に關する事項
- 二、評議員選任に關する件
- 評議員の選任に就ては曩に總會に於て理事會に一任されたる處目下尙會員募集中に屬するを以て或る程度迄之が進捗を見たる上にあらざれば推薦し難き事情あり仍て之を座長に一任することに決定。
- 三、滿洲國帝政記念日に於ける慶祝方法に關する件
- 三月一日の御即位記念日には『慶祝電報』を發することに決定。
- 四、幹事委囑の件
- 本協會の發展を期する必要上新に東京、横濱、名古屋、京都、大阪、神戸及び朝鮮の七商工會議所理事を本協會幹事に委囑することに決定。

(二) 第二回理事會 昭和九年五月十七日

出席者

會 長	日本、東京商工會議所 頭	男爵 郷 誠之助氏
副 會 長	日本興業銀行總裁	結城 豐太郎氏
常 務 理 事	東京商工會議所副會頭	中野 金次郎氏
理 事	富士興業株式會社社長	澁 澤 正 雄氏
同	名古屋商工會議所會頭	岡 谷 惣 助氏
監 事	日滿亞麻紡織株式會社 取締役會 長	中 川 正 左氏
幹 事	大阪商工會議所理事	高 柳 松 一 郎氏
同	名古屋商工會議所理事	三 浦 一 氏
同	京都商工會議所理事	小 倉 季 吉氏
同	東京商工會議所理事	木 村 増 太 郎氏
同	大連商工會議所理事	長 永 義 正氏
同	大連商工會議所副會頭	築 島 信 司氏
同	廣島商工會議所副會頭	濱 中 延 吉氏

博多商工會議所理事	長田 義彦氏
奉天商工會議所理事	野添 孝生氏
貴族院議員	大藏 公望氏
合名會社大倉組重役	河野 久太郎氏
滿鐵支社	澤田 壯吉氏
三菱商事株式會社	塚本 榮氏
	篠崎 嘉郎氏

常任幹事

報告事項

結城副會長より開會の挨拶を述べたる後篠崎常任幹事より左記事項に關して説明報告を爲し承認。次で決議事項に移る。

- 一、會員募集狀況に關する件
- 二、會計に關する件
- 三、大阪、朝鮮兩支部に關する件
- 四、新京駐在員に關する件
- 五、滿洲人の商工視察に關する件

六、滿洲大豆暴落對策に關する件

右に關し約一ヶ月に亙る篠崎常任幹事の實地調査の結果を報告せり。

決議事項

一、滿洲大豆暴落對策に關する件

右に關し種々意見交換の結果、此問題は重大問題なれば更に慎重攻究の要あり、左記三項は當に大豆暴落對策に密接關係あるのみならず滿洲開發上の重要事項なるを以て特に調査研究を爲すことに決定。

(一)鐵道運賃に關する事項

(二)通貨に關する事項

(三)關稅に關する事項

(三) 第三回理事會 昭和九年九月二十六日

出席者	副會長	日本興業銀行總裁	結城 豐太郎氏
	常務理事	東京商工會議所副會頭	中野 金次郎氏

常務理事	大阪商工會議所副會頭	片岡安氏
理事	名古屋商工會議所會頭	岡谷惣助氏
同	博多商工會議所會頭	太田勘太郎氏
同	富士興業株式會社社長	澁澤正雄氏
幹事	神戸商工會議所副會頭	榎並充造氏
同	名古屋商工會議所理事	三浦一氏
同	大阪商工會議所理事	高柳松一郎氏
同	神戸商工會議所理事	福本義亮氏
同	横濱商工會議所理事	園田寛氏
同	廣島商工會議所理事	橋本種次郎氏
同	博多商工會議所理事	長田義彦氏
同	日本商工會議所主事	依田信太郎氏
常任幹事		篠崎嘉郎氏

決議事項

一、滿洲に於ける鐵道運賃、關稅に關する件

右に關し篠崎常任幹事より現地出張調査の結果を報告、本件は頗る重要問題に屬するを以て猶引續き調査研究することに決定。

二、商工會議所會頭退任の場合役員資格に關する件

商工會議所會頭退任の場合は當協會理事をも當然辭任さるゝものなりや否やに關し右は先例ともなるべきにより此際何分の協議を遂げ置くの必要を認め審議せるに、商工會議所會頭の職を退きたる場合は當然理事をも辭任するものとするべきことに決定。

三、稻畑勝太郎氏副會長辭任の件

稻畑勝太郎氏今回大阪商工會議所會頭退任の事情に依り九月十日日本協會副會長辭任屆接受の旨報告承認。

四、滿洲林檢輸入禁止令撤廢方に付全滿果樹栽培業者聯合會より依頼の件

右は日滿經濟提携上慎重に考慮すべき問題たるに依り農村の救済と滿洲開發との關係をも附加して其の緩和方に付政府當局に陳情することに決定。

五、更正豫算に關する件

昭和九年度本部更正豫算
更正豫算

既決豫算

摘要

収入之部

科目	金額	既決豫算
會費	二九、七〇〇・〇〇 ^円	八、五〇〇・〇〇 ^円
補助金	五、〇〇〇・〇〇	一〇、〇〇〇・〇〇
利子	二八〇・〇〇	
雑収入	二〇〇・〇〇	
創立費	六、一四〇・七九	
計	四一、一四〇・七九	一八、五〇〇・〇〇

更正豫算に於ける補助金は滿鐵會社及拓務省分にして、公布豫算に於ける一萬圓は科目上寄附金となしあり

支出之部

科目	金額	既決豫算
給與費	一〇、六〇〇・〇〇 ^円	四、八〇〇・〇〇 ^円
旅費	五、〇〇〇・〇〇	二、〇〇〇・〇〇

通信運搬費	一、二〇〇・〇〇	
消耗品費	一、七〇〇・〇〇	
什器費	一、五〇〇・〇〇	事務費 三、八〇〇・〇〇
圖書費	五〇〇・〇〇	
印刷費	六、六〇〇・〇〇	
會議費	五〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇
接待費	二、五〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
雜費	三、四〇〇・〇〇	三五〇・〇〇
豫備費	一、五〇〇・〇〇	
創立費	六、一四〇・七九	
計	四一、一四〇・七九	一二、四五〇・〇〇

更正豫算の雜費中には定期刊行物供託金を含む

公布豫算には事務費なる科目あるも、通信運搬費、消耗品費、什器費、圖書費及印刷費なる科目なし

備考 創立總會に於て可決されたる當初の既決豫算には前掲本部豫算の外に猶滿洲支部經費豫算金六千五拾圓也を包含し居れり。

六、會員募集に關する件

主として大阪地方に於ける會員募集に就き協議する豫定なりしも同地方風水害ありたるを以て暫く延期することゝな

れり。

(四) 第四回理事會 昭和九年十一月二十九日

出席者

副會長	日本興業銀行總裁	結城豐太郎氏
常務理事	東京商工會議所副會頭	中野金次郎氏
	大阪商工會議所副會頭	片岡安氏
	大連商工會議所會頭	高田友吉氏
	門司商工會議所會頭	出光佐三氏
理事	新京商工會議所會頭	石崎廣治郎氏
	吉林全省商會聯合會會長	范象魁氏
	奉天全省商會聯合會會長	方煜恩氏
	哈爾濱道裡商會會長	唐紹臣氏
	名古屋商工會議所會頭	岡谷惣助氏
	齊々哈爾商會會長	王玉堂氏

同	朝鮮商工會議所會頭	賀田直治氏
同	大連市商會副會長	邵慎亭氏
同	京城商工會議所副會頭	平井熊三郎氏
同	日滿亞麻紡織株式會社 取締役會長	中川正左氏
幹事	朝鮮商工會議所理事	伊藤正愨氏
	大阪商工會議所理事	高柳松一郎氏
	門司商工會議所理事	田中次郎氏
	橫濱商工會議所理事	園田寛氏
	新潟商工會議所理事	塚野俊郎氏
	博多商工會議所理事	長田義彦氏
	神戸商工會議所理事	福本義亮氏
	奉天商工會議所理事	兒玉翠靜氏
	京都商工會議所理事	森口繁治氏
	東京商工會議所理事	木村増太郎氏
同	日本商工會議所主事	依田信太郎氏

滿洲支部常任幹事 大連商工會議所書記長 長 永 義 正氏
常任幹事 篠崎 嘉 郎氏

會員總會に對する準備として第一回評議員會と併合開會す、結城副會長議長席に着き左記事項を協議決定せり。

決議事項

- 一、副會長補缺選舉に關する件
副會長稻畑勝太郎氏大阪商工會議所會頭退任の事情に依り九月十日日本會副會長を辭任缺員中の處之が補缺選舉を評議員會に於て行ふべきに付豫め協議せる結果現大阪商工會議所會頭森平兵衛氏を後任として推すことに決定。
- 二、理事一名補缺選舉に關する件
前奉天商工會議所會頭庵谷忱氏曩に本協會理事を辭任せられ之が補缺選舉を評議員會に於て行ふべきに付豫め協議せる結果現奉天商工會議所會頭石田武亥氏を後任として推すことに決定。
- 三、東京に理事五名増員に關する件
事務進捗を期する爲東京に理事五名増員の必要を認むるも之が決定は評議員會に於ける選舉に由るべきものなるに付豫め協議したる處左記五氏を適任者として推すことに決定。
三菱商事株式會社取締役會長 三宅川百太郎氏 三井物産株式會社代表取締役 南條 金雄氏
大倉商事株式會社社長 玉木誠次郎氏 大同セメント株式會社社長 淺野 良三氏

富士瓦斯紡績株式會社專務取締役 鹿村 美久氏

四、會則改正に關する件

會則中一部改正の必要を認むるも右は評議員會に於て行ふべきものなるに付豫め協議したる結果第三條、第五條、第十一條第一項を改正することに決定。

五、朝鮮に常務理事一名設置互選に關する件

明年四月一日朝鮮支部開設の爲常務理事一名設置の事に決定、右は互選投票を省略し議長指名に一任したる結果結城議長は左の通り指名せり。

常務理事 理事 朝鮮商工會議所會頭 賀 田 直 治氏

六、總會附議事項

會員總會に提出すべき附議事項は先づ以て評議員會に附議すべきものなるに付豫め之に關して協議する所ありたり。

(五) 第五回理事會 昭和十年一月二十四日
於日本工業俱樂部

出席者	副會長	日本興業銀行總裁	結城 豐太郎氏
	同	大阪商工會議所會頭	森 平兵衛氏
	常務理事	東京商工會議所副會頭	中野 金次郎氏

同	大阪商工會議所副會頭	片岡安氏
同	富士興業株式會社社長	澁澤正雄氏
同	三井物産株式會社代表	南條金雄氏
同	大倉商事株式會社社長	玉木誠次郎氏
同	富士瓦斯紡績株式會社	鹿村美久氏
同	專務取締役	中川正左氏
同	日滿亞麻紡織株式會社	園田寬氏
同	取締役會長	三浦一氏
同	橫濱商工會議所理事	高柳松一郎氏
同	名古屋商工會議所理事	塚野俊郎氏
同	大阪商工會議所理事	木村増太郎氏
同	新潟商工會議所理事	依田信太郎氏
同	東京商工會議所理事	篠崎嘉郎氏
同	日本商工會議所副理事	

報告事項

一、滿洲國消費組合に關する件

常任幹事

右は滿洲支部より滿洲商工會議所臨時聯合會決議文を添へ考慮方申出ありたる旨報告。

決議事項

一、豫算流用の件

昭和九年度支出豫算接待費金貳千五百圓也は滿洲國諸大官、商工視察團其他の歡迎、會員勸誘午餐會並に會員總會出席者懇親會費等に支出し盡したるを以て、豫備費金壹千五百圓也中金壹千圓也を接待費に流用することに決定。

二、滿洲國麥酒輸入税引下方陳情に關する件

三、滿洲國內陸税關設置方依頼に關する件

帝國麥酒輸出組合理事長高橋龍太郎氏より滿洲國麥酒輸入税引下に關し別紙（陳情、建議事項記事参照）の通り斡旋方陳情あり、又朝鮮貿易協會會長加藤敬三郎氏より滿洲國內陸税關設置に關し別紙（同上）の通り盡力方依頼あり、仍て慎重審議の結果猶一應之を調査すると同時に滿洲支部にも移牒し審議方を依頼することに決定。

四、常任幹事委囑に關する件

來る四月一日朝鮮支部開設に伴ひ朝鮮伊藤幹事を常任幹事に委囑することに決定。

五、定例理事會開催の件

今後毎月第三水曜日（日本商工會議所常議員會定例日）午後四時より理事會を開催することに決定。

出席者

會長	日本商工會議所會頭	男爵 誠之助氏
副會長	東京商工會議所會頭	森平兵衛氏
常務理事	大阪商工會議所會頭	森野金次郎氏
理事	東京商工會議所副會頭	中野美久氏
監事	富士瓦斯紡績株式會社 專務取締役	鹿村久氏
	日滿亞麻紡織株式會社 取締役會長	中川正左氏
	廣島商工會議所常議員	横山周一氏
幹事	神戸商工會議所理事	福本義亮氏
	京都商工會議所理事	森口繁治氏
	門司商工會議所理事	田中次郎氏
	新潟商工會議所理事	塚野俊郎氏
	名古屋商工會議所理事	三浦一氏
常任幹事		篠崎嘉郎氏

報告事項

一、滿鐵補助金願書提出に關する件
 九年度補助金參千圓也なりしも十年度は豫算計上の通り金五千圓也、一月二十一日附滿鐵東京支社經由林總裁宛下方願書提出の旨報告。

決議事項

- 一、滿洲國 皇帝陛下奉迎に關する件
 右は御訪日迄に猶餘裕あるを以て次回定例理事會まで各自に於て考慮することに決定。
- 二、新京駐在員に關する件
 右設置は明年度より實行することとなり居れるを以て滿洲支部との間に協議準備を進むることに決定。
- 三、滿洲國輸入石鹼關稅引下盡力方依頼に關する件
 右は大阪、東京兩石鹼製造同業組合より別紙（陳情、建議事項記事參照）の通り盡力方依頼ありたるを以て慎重審議の結果前回の理事會に於て審議せる麥酒關稅同様一應調査すると同時に滿洲支部に移牒し審議方を依頼することに決定。
- 四、滿洲視察團計畫に關する件
 右は猶各地に於ける狀勢を觀たる上にて何分の決定を爲すことに決定。
- 五、滿洲經濟事情座談會開催に關する件

右は滿洲に於ける關稅、鐵道運賃、通貨、特産問題其の他重要事項に關し滿鐵、滿洲國政府其の他の援助を受け各地の要求に應じて滿洲經濟事情座談會を開催することに決定。

五〇

(七) 第七回理事會 昭和十年三月十三日

出席者

常務理事	東京商工會議所副會頭	中野金次郎氏
同	大阪商工會議所副會頭	片岡安氏
理事	富士興業株式會社社長	澁澤正雄氏
同	名古屋商工會議所會頭	岡谷惣助氏
監事	日滿亞麻紡織株式會社取締役會長	中川正左氏
幹事	大阪商工會議所理事	高柳松一郎氏
同	名古屋商工會議所理事	三浦一氏
同	横濱商工會議所理事	園田寬氏
同	博多商工會議所理事	長田義彦氏
同	東京商工會議所理事	木村増太郎氏

常任幹事

篠崎嘉郎氏

報告事項

一、昭和九年度會費收納狀況に關する件

二、滿洲經濟事情座談會に關する件

滿洲經濟事情特に運賃及關稅に關し滿鐵會社、滿洲國公使館商務官の援助の下に各地に於て座談會開催の件は内地府、縣、市、商工會議所及主なる組合、協會等に對して二月二十七日各照會を發せし處本月十二日迄に東京實業組合聯合會、横濱貿易協會、愛知縣滿蒙輸出組合、高知商工會議所、下ノ關商工會議所、鳥取縣經濟部、岩手縣商工課、釧路商工會議所より開催方申込み先づ三月十四日東京實業組合聯合會、同十五日横濱貿易協會、同十六日愛知縣滿蒙輸出組合の三箇所に於て右座談會開催のことに決定せる旨報告。

三、滿洲國麥酒輸入税引下に關し再陳情の件

曩に昭和十年一月十八日附帝國麥酒輸出組合理事長より滿洲國麥酒輸入税引下斡旋方に關し陳情書提出ありたるが、更に二月二十八日附を以て同理事長より同一事項に就き在滿洲麥酒輸入販賣業者十七商店の意見書添附の上再び陳情ありたる旨報告。

四、會計監査に關する件

昭和十年二月末現在經費出納事務に關し監査を行ひたるに何れも正確なることを認めたる旨中川監事より報告あり承

認。

決議事項

- 一、滿洲國 皇帝陛下奉迎方法に關する件
右は奉迎文及獻上品を奉呈する事に決定、其の作成品目の選定及手續等に就ては會長に一任の事。
- 二、昭和十年度朝鮮支部豫算に關する件
右は別紙朝鮮支部開設準備委員に於て作成されたる原案（別項参照）通り決定。
- 三、對外貿易施設に關する件
右は昭和十年二月二十九日附を以て社團法人朝鮮貿易協會より對外貿易特に對滿貿易施設に關し申出あり本協會としても善處する事に決定。
- 四、總會委任事項に關する件
昨年十一月の定期總會に於て理事會一任となりたる（イ）より（ホ）に至る五案は滿洲支部の議を經移牒あり左の通り決定。
- （イ） 日滿通貨統制に關し兩國政府に要望の件
右は重要問題なるを以て即決を保留し慎重研究することに決定。
- （ロ） 滿洲國に於ける鐵道運賃統制に關する件

右は更に具體的資料を蒐集し次回理事會に於て審議することに決定。

- （ハ） 滿洲國私設鐵道助成法制定方要望の件
右は原案賛成に決定。
- （ニ） 興業金融機關設置要望に關する件
右は原案賛成に決定。
- （ホ） 滿洲移住獎勵に關する件
右は原案賛成に決定。
- （ヘ） 滿洲國麥酒輸入税引下に關する件
右は猶調査研究することに決定。
- （ト） 滿洲國內陸稅關設置に關する件
陸稅關設置に關しては素より異議なきも其の趣旨を達成せんが爲めには豫て懸案中に屬する主要經濟都市に於ける保稅倉庫の實現を促進することを以て寧ろ適切と認むるに付之が促進方を要望することに決定。
- （チ） 滿洲國石鹼輸入税引下に關する件
右は尙調査研究することに決定。

五、電話購入の件

右は至急一個購入のことに決定。

五四

昭和十年度日滿實業協會朝鮮支部經費收支豫算

科目	金額	科目	金額
一、給與費	二、二〇〇 <small>円</small>	一、旅費	五〇〇 <small>円</small>
一、通信運搬費	一〇〇	一、消耗品費	六〇
一、什器費	七〇	一、圖書費	二〇
一、印刷費	三〇〇	一、會議費	一〇〇
一、接待費	一〇〇	一、雜費	一五〇
一、豫備費	四〇〇	計	四、〇〇〇

四、第一回幹事會

昭和九年七月十一日

出席者

依田信太郎氏 木村増太郎氏 園田 寛氏 三浦 一氏 小松季吉氏
 高柳松一郎氏 福本義亮氏 塚野俊郎氏 篠崎嘉郎氏

左記事項に關し協議を遂げたり。

- 一、經費收支報告並に昭和九年度更正豫算案
- 二、會員募集狀況報告と今後の方針打合
- 三、理事會にて決定せる通貨、關稅、運賃問題の調査立案と其の取扱方に關する打合
- 四、産業經濟情報として旬刊發行計畫に關する打合
- 五、定款の改正及支部規定等に關する打合

第四事業

本期(自昭和八年十一月)に於て本協會の施行せる事業の主なるものは創立當初に於ける「會員の勧誘」「日滿經濟提携に關する」方策の審議、建議、要望、日滿産業經濟に關する「諸般の通報、調査及統計の編纂」、「日滿産業經濟關係者の懇親」、「日滿經濟事情紹介の講話會」等なるが以下各項順に之を記述すべし。

一、會員の勧誘

本協會の創立は八年十一月恰も日本商工會議所定期總會を機會とし不取敢創立總會を結了せり、而して商工會議所と

五五

滿洲國に於ける商會を會員とするのみにては所期の目的を達成すること困難なるを以て十二月事務開始以來本部及滿洲支部は直接又は各地商工會議所滿洲國にありては實業部或は商會等を通じ會員加入の勧誘に努力せり、就中本部所在地東京に於ては一月二十五日東京會館に財界の有力者約九十名の參集を乞ひ午餐を共にしたる後、郷會長より本協會創立總會前後の實情より實業界總動員を以て形成するの必要を述べられ、續いて我國の現狀に鑑み此の際滿洲問題の解決促進の爲めに一臂の力を御添へ下さることを得ば日滿兩國の爲め慶賀に堪へずと當日の催しに對する大體の趣旨を述べ、來賓各位の御諒解と御後援を求められ、更に結城副會長は滿洲に於ける軍事工作が一應終り經濟工作に就て實業界に身を置くものが兩國經濟提携の爲めに何等かの働きを爲さざるべからずといふ實感と日滿兩國人の融和懇親、兩國經濟の提携に就て各位の御協力と御盡力を願ふ旨を述べられ、最後に中野常務理事より協會の實情を説明せられたり。

之に對し王子製紙社長藤原銀次郎氏は來賓を代表し最初滿洲には内地資本家の這入ることを喜ばれずといふが如き風説ありしも、實際現地に行きて見れば却つて資本家が歓迎され内地資本の投下、内地資本家の活動を大に待望し居らること明かとなれり、此の際日滿經濟の提携發達には如何にしても内地資本家の活動必要なるが夫れにしても日滿人の融和懇親といふことが先決問題にして、是れには適當なる機關を必要とすべし。幸に茲に日滿實業協會なるものが設立され有力なる幹部諸君以下が實際其衝に當られその事業に就かれるといふことは頗る時宜に適したる措置にして、此の非常時に對處する上に極めて肝要なること、信ずる旨を答へらる。斯くして多數の賛同を得加入者漸次増加し左表の會員數を見るに至れり。

滿洲支部に在りては前記の如く滿洲國實業部の大なる斡旋、各地商工會議所、商會等の盡力に依り加入者漸次増加し左表の會員數を見るに至れり。朝鮮に於ては九年五月七日京城商工會議所にて同會議所主催の下に財界有力者約六十名の參集を求められ弊協會加入方に就き懇談されたる處滿場一致參加後援さるゝことに決定し爾來三百口を目標として勧誘さるゝこととなり、加入者漸次増加し左表の會員數を見るに至れり。大阪は日滿貿易に至大の關係を有する經濟的中心都市なるも會員勧誘の順序が本部所在地東京を始めとしてその一段落を告ぐるを俟ち大阪を主として關西地方に及びべき豫定にして、偶々大阪商工會議所會頭稻畑勝太郎氏は弊協會の副會長の地位にもあり四月二十六日大阪俱樂部に財界有力者數十名を招待され後援方を求めらるゝ所あり、今秋更に懇請の豫定なりし處、風水害の爲め延期の止むなきに至れり。其他各地に在りては主として商工會議所に依頼し勧誘せし處漸次加入者ありて左表の會員數を見るに至れり。昭和九年度末（昭和十年三月末日）現在各地の會員數及口數左の如し。

地方別	法人		個人		計	
	件數	口數	件數	口數	件數	口數
東京	二六六	一、一〇二	八二	一五六	三四八	一、二五八
大阪	一一三	一〇三	一四	二四	一二七	一二七
						五七

京 都	二	二	一	一	一	三	三
愛 知	九	一三	五	八	一四	二二	三
千 葉	一	一	一	一	一	一	一
神 奈 川	二	一	一	一	二	二	一
群 馬	一	一	一	一	一	一	一
靜 岡	二	二	一	一	三	三	一
兵 庫	二	六	四	五	六	二	一
山 口	一	一〇	一	一	一	一	一
福 岡	七	七	三	三	一〇	一〇	一〇
北 海 道	二	四	一	一	二	四	二
臺 灣	一〇	一〇	二	二	二	二	二
朝 鮮	六〇	一三四	二六	三三二	八六	一六六	二二
計	三八六	一、四〇四	一四〇	一三四	五二六	一、六三八	九三
商工會議所					九三	一、二三五	六一九
合 計					六一九	一、八七三	

五八

滿洲支部

邦 人 側	一三七	一二九
滿 洲 側	二二六	三〇二
總 計	九八二	二、四〇四

(商工會議所中には滿洲に於ける商工會議所を含まず)

二、日滿經濟提携に關する建議、陳情、要望、決議、意見

本期に於て本協會が總會、評議員會、理事會の決議に依り文書を以て政府當局に建議し、關係方面に要望し又は決議及意見を發表し若くは陳情せる事項左の如し。

(一) 滿洲大豆の市價慘落對策に關する件

本件は先づ滿洲現地に於ける實情並に其の對策に關し十分に調査研究を爲すの必要あるを認め、昭和九年四月七日篠崎常任幹事を滿洲に派遣したり。其の歸京を待つて五月十七日本部第二回理事會を開催し、篠崎常任幹事より詳細なる調査報告(昭和九年五月刊行パンフレット「滿洲大豆暴落とその對策」参照)を聴取すると共に種々之が對策に關して

協議を遂ぐる所あり、其結果本問題は現下極めて重要な事項に屬するを以て、更に各會議所其他と連絡協力を得て調査攻究を積み、而して關係當局に向て數度之が善處方を懇請したり。

然るに其後の情勢に變化を來し、獨逸に於ては從來の政策を緩和して大豆輸入制限令の撤廢を斷行し、又南支方面に於ても滿洲事變以來滿洲大豆の商取引を中絶し來れるものを實際上の必要に迫られて其の漸く復活を見るの機運に際會せる等の事情により、大連に於ける大豆、豆粕相場大幅の騰貴を告げ、滿洲主要地に於ける滯貨は急激に減退を來し、滿洲特産に關する限り内外に於ける情勢は今春來數ヶ月の間に漸く一變せるの觀を呈し來れるを以て、再び篠崎常任幹事を以て今夏八、九月の交約一ヶ月に互り親しく滿洲現地に就て調査研究せしむる所あり、其の報告（昭和九年十月刊行パンフレット「滿洲に於ける鐵道運賃、關税に關する報告、附大豆暴落應急對策の必要解消」参照）に基き、九月二十六日開催せる第三回理事會に於て慎重審議する所ありしが、結局所謂滿洲大豆暴落應急對策問題は自然に解消するに至れるものとして、恒久對策たる（一）鐵道運賃、（二）關税、（三）通貨の三問題に對し引續き調査研究の歩を進むることとせり。

（二）濠洲小麥粉滿洲ダムピング防止對策に關する件

本件は昭和九年三月三十一日、日清製粉株式會社より本協會に對し依頼ありたるを以て慎重協議の結果同年四月二日附會長名を以て陳情書を陸軍省軍務局長、拓務省殖産局長宛提出せり。

滿洲輸入小麥粉に關する件

拜啓 陳者近時滿洲に於ては濠洲より小麥粉のダンピング行はれ爲めに本邦當業者は至大の打撃を受け困憊罷在候趣を以て別紙小麥輸入に關する陳情書（寫）日清製粉株式會社々長正田貞一郎氏より何分の盡力方申出有之候に就ては本邦に於ける斯界の現状に鑑み此際關東軍、滿洲國政府と御交渉の上何とか適當の方法を以て右防止方御高配に預り度此段及御願候 敬具

（別紙）

小麥粉輸出に關する陳情書（寫）

我邦小麥粉の海外輸出は最近非常なる發展を爲し昨昭和八年には輸出高一千四百三十四萬袋金額三千四百九十五萬圓に達し重要輸出商品として第七位を占むるに至り候 其主なる仕向地は滿洲國にして總額の九割弱に達し最も重要なる關係に有之候處一昨年以來濠洲は同國に向け順次販路を開拓し最近に至りては非常廉賣をなし既に本年に入り僅々二ヶ月間に約百六十萬袋の小麥粉を輸入し内地品の地盤を盛に蠶食致居候 元來濠洲小麥を主たる原料とする内地當業者は利底之に拮抗する事を不得漸次壓迫せられること、相成り日本製粉業の死活に關する重大事として黙過し得ざる現状に有之候に就ては左記の通り至急御斡旋の上日本粉の利益を保全し地盤を擁護致され度概略説明書相添陳情旁々奉懇願候

一、滿洲國に於て非常廉賣をなす濠洲小麥粉に對して從價三割以上の關税を特に課するか又は適當の方法により其輸

入數量を制限せられたし

昭和九年三月

東京市日本橋區小網町一丁目二番地四

日清製粉株式會社

取締役社長 正田貞一郎

六二

日滿實業協會

會長 男爵 郷 誠之助 殿

說明書 (要領)

一、日本に於ける小麥粉の需給狀態

我邦に於ける一ヶ年の小麥粉總生産高は五千九百四十萬袋にして需要高は約三千萬袋に達し差引一ヶ年約二千九百四十萬袋の餘剰を生ず、従つて此の超過分は當然海外輸出を必要とし、殊に政府が農村救済の一策として昭和七年六月輸入小麥粉の關稅引上を決行したる以後、此の傾向は益々助長されたり。

二、輸出小麥粉の仕向地

日本小麥粉の主なる仕向地は滿洲國にして、昭和四年以後同八年に至る毎年平均の總輸入高は千二百七十一萬袋に

して特に昭和八年度に於ける輸入額は我小麥總輸出額の八割六分に達する盛況を示したり。

次に支那の小麥輸入高は年額約三千萬袋に上り内支那最大の輸入港たる天津の日本粉輸入高は事變前の昭和六年に二百六十七萬袋に達し總輸入高の約三十五パーセントを示し以後は漸衰の傾向にあり。

三、滿洲國に於ける製粉業の現狀

ハルピンは北滿製粉業の中心地にして附近一帯に於ける約五十の機械製粉工場有能力は一ヶ年三千萬袋と稱し居るも實生産額は遙かに少く約一千四五百萬袋に過ぎず、而して將來需要増加に際し三千袋迄は既設工場により生産を増加して供給に應じ得るも、新たに工場を建設するが如きは下記の理由により到底不可能と思はる。(一)北滿小麥は年の豊凶著しく供給不安なり、(二)副産物たる麩の價格低廉なる爲め小麥粉の元價を甚だしく高からしむ、(三)動力及運賃等高價なり。

而して一方北滿に於ける小麥粉の需要を見るに、一帯の機械製粉一ヶ年の生産高一千五百萬袋、磨房粉二百萬袋、輸入粉の平均高一千二百七十一萬袋を加算する時は一ヶ年の消費高は約二千萬袋にして一人當り年平均消費は一袋となる、而して此の消費率が今後治安の維持及産業の興隆に伴うて、高粱、粟等の代用食を排し小麥粉専用の到來を豫想すれば天津地方に於ける一人當りの平均八袋の消費率に達するは容易に推定される處なり、而して其時に及び北滿製粉業者が全能力を以て三千萬袋を供給し残りの三千萬袋を日本よりの輸入粉を以て充當するものとせば日滿兩國の製粉業は完全に安定することを得べし。

四、濠洲粉のダンピング

大連に於ける輸入粉の趨勢を見るに米國粉、加奈陀粉は滿洲事變後激減の一路を辿り、之れに反し日本粉、濠洲粉の進出は左表の如く目醒ましく特に本年に入り濠洲粉は遙かに日本粉を凌駕したり。

	日本粉	濠洲粉
昭和六年	一、二八七、〇八五袋	三、〇一三袋
同 七年	四、五二八、七七六袋	九五〇、二一九袋
同 八年	八、六四八、一九六袋	一、五〇八、六四八袋
同 九年二月迄	一、二九四、四七三袋	一、五七八、七一三袋

而して一方濠洲に於ける小麦粉相場を（九年一月メルボルン市）見るに

市中賣値	賣 値	
	二千封 一噸に付	日本金換算 一袋に付
F O B	七、 ^片 _六	二、 ^円 _{三五二}
大連渡シ	五、 ^片 _七	一、 ^円 _{八五七}
	六、 ^片 _{一〇、三}	二、 ^円 _{一五〇}

即ち一袋に付き實に四十九錢五厘の廉賣をなしつゝあること明かなり、當日大連に於ける日本粉の賣値は倉渡し平均一袋二圓五十五錢にして濠洲粉は大連C I F金二圓十五錢口錢及諸掛を加へ倉渡し一袋金二圓二十五錢なれば三十錢の差を生じ到底競争に堪へ得ざるものあり。

(三) 對滿輸出綿布染色工業の保護獎勵に關する件

本件は昭和九年六月十八日附を以て大阪染色工業組合理事長市居嘉三郎氏より陳情ありたるにより、審議の上同月二十七日附外務、商工、拓務各省次官、陸軍省軍務局長、滿洲國財政部稅務司長、關東軍特務部長に對し左記陳情書を提出せり。

記

拜啓 陳者對滿輸出綿布染色工業の保護獎勵に關し別紙寫の通り申出有之候に就ては願意達成する様御高配相成度此段御願申上候 敬具

(別 紙)

大阪染色工業組合の陳情書 (寫)

我國輸出綿布染色工業の保護奨励の爲左記事項御配慮相煩し度此段及陳情候也

一、滿洲國內に於ける綿布染色工場の新設又は増設に對し制限を加へらるゝ様當局に陳情せられたし

理 由

我國輸出綿布染色工業は歐洲大戰を一期として大なる進歩を爲し其後引續き海外の販路擴張に努力の結果多少の浮沈ありしも概して良好なる成績を以て發展し今日に及びり。

加工綿布中染色品の昭和八年中に於ける輸出額は十億一千四百九十六萬一千三百二十五平方碼、二億一千六百六十二萬三千三百五圓にして我國輸出貿易品中重要な地位に在るは周知の事實なり。

而して海外に於ける需要が相當大にして益々有望なる事業なりとして之に對應すべく設備せる染工場は現在に於ては餘力大となり目下輸出の好調を見つゝあるにも不拘染工場の繰業は約二分の一にして従て各工場は自己工場の經營を有利に導く方法として染色數量を多くして工場の最も都合よき全運轉を爲さんとするの結果は互の顧客爭奪となり延ては加工料金の漸低を來し遂には加工原價を無視したるが如き無暴なる料金の出現するに到り此儘放任するを得ず同業者團結し政府當局に陳情し本月を以て輸出綿布染色業統制を行ふことゝなれり。

友邦滿洲は輸出地として從來より相當有望なる地方にして常に加工綿布の大消費地として業者の囑望せるものなり殊に滿洲國出現以來、秩序整ひ人民も安全に商取引を行ひ得るが故に取引も年次に大となり益々有望なる消費地とし

て業者の重點を置くべき地方となれり。

斯の如く最も重要性を有する滿洲國內に於て我國輸出加工綿布の染色工場が今後新設或は増設せらるゝに於ては我國內同業者に取れて誠に重大危機に頻するものなれば我國染色工業の爲滿洲國內に於ける染色工場の新設又は増設に對し制限を加へらるゝ様希望する次第なり。

一、滿洲國輸入關稅中生地綿布と染色綿布との稅額の差を縮小する様稅率の改正方當局に對し陳情せられたし

理 由

現在滿洲國に對し我國より輸出せられつゝある染色綿布中主たるものは無地染四ツ綾にして之を一例として加工綿布と生地綿布との稅額を比較すれば次の如し。即ち

無地染四ツ綾は稅番第二十七號(ロ)に相當し從量稅にして稅額一反滿洲國貨幣二圓五十四錢、之を我國貨幣に換算すれば二圓七十四錢となり、大阪市價一反七圓十二錢五厘に對し稅率は三八・五%となる。然るに生地四ツ綾は稅番第十一號にして此稅額は從價一〇%、大阪市價六圓の一〇%即ち六十錢の稅額となる。斯の如く四ツ綾製品は生地の三・八五倍となり製品の輸出は生地の安價に壓倒せられ安價の生地を滿洲國に輸入することを奨励し製品の輸入を防遏する結果となり延ては滿洲國內に染色業の開業を容易ならしめ本邦と對抗して染色業界の由々敷問題を惹起するに至る虞れ濃厚なり。

以上は一例に過ぎざるも綿布全體を通じ概して同様の状態に在り故に一般綿布の生地と製品との税額の差を縮小して我輸出綿布の滿洲國輸入を容易ならしむる様速かに税率の改正方を要望する所以なり。

昭和九年六月十八日

大阪染色工業組合

理事長 市居 嘉三郎

日滿實業協會

常任幹事 篠崎 嘉郎殿

(四) 滿洲林檎内地輸入禁止令對策に關する件

本件は全滿洲果樹栽培業者臨時聯合會(關東州果樹組合、滿洲果樹輸出販賣組合、滿洲果樹組合、熊岳城果樹組合、滿洲農事協會)より昭和九年八月十日及同月十六日の兩回電報を以て依頼し來り、更に超えて同月十三日該聯合會陳情委員田邊敏行氏外三氏來訪の上事情具陳さるゝ所ありたるを以て、本協會は之が真相に就き調査を爲し九月二十六日理事會に於て慎重協議の結果九月二十八日附會長名を以て陳情書を總理、農林、拓務、陸軍各大臣及關東長官宛提出せり。

滿洲林檎内地輸入禁止令撤廢方陳情の件

本年八月三日農林省令を以て發布せられたる滿洲林檎の内地輸入禁止は最近十年間關東廳、滿鐵會社の獎勵指導の下に漸く發達し來れる苹果の栽培に甚大なる打撃を與へ日滿産業經濟の相互依存關係を破壊するものと認めらるゝが、姫心喰蟲内地侵入防止に就ては別に關東廳に於て検査機關を設け嚴重検査さるゝに於ては其の目的容易に達成さるゝものと思考するを以て速に該省令の撤廢方考慮せられ度

想ふに滿洲林檎の内地に輸入さるゝもの未だ一ケ年三萬箱に達せず之を内地生産高六百萬箱に對比すれば内地當業者に對する影響の如き殆ど問題視するに足らざるなり、然るに農林省が検査機關の確立を待たず突如禁止令を發布し獨り内地輸入を杜絶せしむるに止まらず將來同品の海外市場に於ける輸入禁止をも誘發するが如き事態發生せんか實に在滿果樹栽培業者を死地に陥らしむるのみならず滿洲の産業開發に多大の影響を與ふるものと言ふべきなり

向後兩者の關係に就ては能く其の調節を圖り相互依存經濟の本義に背馳せざる様御賢慮を賜り度切望に不堪右及陳情候也

(五) 滿洲國私設鐵道助成法制定方に付要望の件

本件は第十八回滿洲商工會議所聯合會より昭和九年十一月三十日の定期總會に提議されたるものにして總會の審議を経て、昭和十年三月十八日附會長の名を以て左記陳情書を總理、鐵道、大藏、外務、拓務、商工、農林各大臣、對滿事務局總裁、關東局總長、滿洲國政府國務總理、交通部、實業部及財政部各大臣宛提出せり。

滿洲國私設鐵道助成法制定に關し陳情の件

滿洲に於ける鐵道は滿鐵、北鐵、國有鐵道あるも未だ之れを以て足れりとせず特に北滿地方は輒近重要幹線の建設大に見るべきものあり、眞に滿洲國內國有鐵道網の完成を期せんには前途猶ほ幾多の星霜を數へざるべからず、他面國道局に由る國道網完成も亦之れと其の軌を等しくするものなり、依て滿洲國産業開發上又は居住、往來の安全自由を増進せんが爲め、速に滿洲國私設鐵道助成法を制定し、國家の保護助成の下に主要各地に私設鐵道の建設せられむ事を翹望して已まざるものなり、現在鐵道以外の交通機關としては馬車、自動車、「トラック」に依ると雖も、治安未だ完からざる現狀に於ては警備上充分を期する事を得ず、幸に私設鐵道の敷設せらるゝ場合に於ては警備の秩序と擴充を見ることが容易なるべきは敢て説明を要せざる處なり、更に私設鐵道助成法制定の曉には私設鐵道事業が對滿投資の恰好なる對象となるべきは勿論、之れに由りて滿洲資源の開發を容易且つ迅速ならしむるは明白なるべし、斯の故を以て速に滿洲國私設鐵道助成法制定相成候様御取計相成度本協會總會の決議に依り此段及陳情候也

(六) 滿洲國に興業金融機關設置方陳情に關する件

本件は第十八回滿洲商工會議所聯合會より昭和九年十一月三十日の會員總會に提議されたるものにして總會の議を経て昭和十年三月十八日附左記陳情書を總理、大藏、商工、農林各大臣、對滿事務局總裁、關東局總長、滿洲國政府總理、實業部及財政部各大臣宛提出せり。

興業金融機關設置に關する件

滿洲國には幾多の内外金融機關存在し、各其の機能を發揮しつゝありと雖も、東洋拓殖會社を除くの外は何れも普通金融機關たるに過ぎずして、未だ長期低利興業金融業務を掌る機關の設定を見ざるは甚だ遺憾とする所なり、今や滿洲國に於ける情勢は資源開發を促進し、企業建設を助成すべく低利長期の資金を供給する興業金融機關の設置を急務とす、政府は右滿洲國內特殊事情に鑑み、速に其の種機關を急設されんことを要望して止まず、若し夫れ急遽之れが實現困難なる事情ありとせば、過渡的辦法として既設東洋拓殖會社の業務の範圍及内容を改善擴張し、以て如上の目的を達成せしむる様御取計相成度本協會總會の決議に依り此段及陳情候也

(七) 滿洲移住獎勵に關し陳情の件

本件は本協會評議員會より昭和九年十一月三十日の定期總會に提案上程せられたるものにして同總會に於て慎重審議の結果昭和十年三月十八日附左記陳情書を總理、拓務、外務、陸軍、大藏、農林、商工各大臣、對滿事務局總裁、關東局總長、滿洲國政府總理、實業部各大臣宛提出せり。

滿洲移住獎勵に關する件

邦人の滿洲移住は日滿關係を鞏固ならしむる礎石にして、滿洲事變善後對策として甚だ重要なり、之を滿洲開發、日滿兩國の恒久的親善融和の見地よりするも極めて緊急事に屬す、然るに滿洲建國以來日を閱すること既に三星霜、僅に

當面を彌縫するに止り、未だ根本對策の樹立を見ざるは洵に遺憾に不堪、依て政府は現下内外の狀勢に鑑み速に邦人の移住に對する根本方策を確立し、實行の域に進められんことを切望して止まず
右本協會の決議に依り及陳情候也

三、商工視察の斡旋

(一) 大連市泰東日報社及滿洲國協和會共同主催、本協會後援の内地商工視察團一行十四名は昭和九年四月二十五日入京、本協會の斡旋によりて王子十條造兵廠火工廠、赤羽被服廠、深川越中島糧秣本廠、花王石鹼吾孀工場、東京朝日新聞社、王子製紙會社十條工場、大日本麥酒會社向島工場等を視察し五月一日退京せり。
(二) 滿洲支部主催第一次訪日商工視察團一行二十七名は長永常任幹事及早川囑託附添ひにて昭和九年十一月二十四日入京の上各處を視察觀光の上十二月一日退京せるが、其間斡旋する所ありたり。

四、懇談會

(一) 第一回懇談會 昭和九年三月二十日午後四時
於東京會館
日滿經濟提携に關する件

來賓

陸軍省軍事課	步兵中佐	大城戸三治殿	同	砲兵少佐	秋永月三殿	
同	一等主計	平井豐一殿	同	統制課	砲兵少佐 佐藤賢了殿	
同	主計課	三等主計正	木村陽治郎殿	參謀本部支那班	砲兵中佐 影佐禎昭殿	
同	同	步兵少佐	今井武夫殿	同	步兵少佐 渡左近殿	
同	同	一等主計	遠藤武勝殿	同	第四課	步兵大尉 片倉衷殿

出席者

大同セメント株式會社社長	淺野良三氏	日本興業銀行總裁	結城豐太郎氏
國際通運株式會社社長	中野金次郎氏	富士興業株式會社社長	澁澤正雄氏
日滿亞麻紡織株式會社 取締役會會長	中川正左氏	東京商工會議所理事	木村増太郎氏
日本商工會議所主事	依田信太郎氏	東京商工會議所主事	武内謙二氏
常任幹事	篠崎嘉郎氏		

結城副會長より開會の挨拶を述べ、次で來賓數氏より滿洲に於ける産業經濟並に治安狀態等に關して詳細なる説明あり、更に日滿經濟提携策に就きて意見交換を試み、右了つて一同晚餐を共にし、食後引續き懇談を交へ午後九時過散會せり。

(二) 第二回懇談會 昭和九年四月九日正午
滿洲國の財政に就て

來賓

滿洲國財政部總務司長 星野直樹殿

出席者

- | | | | |
|-------------------------|---------|-------------------------|--------|
| 株式會社大塚工場社長 | 大塚榮吉氏 | 日華生命保險株式會社
取 締 役 | 河合良成氏 |
| 淺野セメント株式會社
專 務 取 締 役 | 金子喜代太氏 | 東京灣汽船株式會社取締役 | 永野護氏 |
| 三井物産株式會社取締役 | 向井忠晴氏 | 株式會社白木屋專務取締役 | 山田忍三氏 |
| 東邦電力株式會社社長 | 松永安左衛門氏 | 富士瓦斯紡績株式會社
專 務 取 締 役 | 鹿村美久氏 |
| 水口物産株式會社社長 | 水口達氏 | 東京商工會議所議員 | 守隨彦太郎氏 |
| 東京商工會議所議員 | 廣瀬與兵衛氏 | 東京商工會議所議員 | 西村吉兵衛氏 |
| 滿洲セメント株式會社
取 締 役 | 伊藤精七氏 | 日本興業銀行總裁 | 結城豐太郎氏 |
| 國際通運株式會社社長 | 中野金次郎氏 | 富士興業株式會社社長 | 澁澤正雄氏 |
| 日滿亞麻紡織株式會社
取 締 役 | 中川正左氏 | | |

東京商工會議所、日滿實業協會共同主催にて開催、先づ結城副會長より開會の挨拶を述べたる後、星野總務司長は滿

洲國財政の現状、日本の駐滿國防費の負擔、國立化學研究機關の創立計畫等に就いて詳細なる講話を試みられ、引續き懇談に移り午後二時散會せり。

(三) 第三回懇談會 昭和九年五月二十五日午後四時
於日本工業俱樂部

治外法權並に鐵道附屬地行政權に就て

來賓

陸軍省軍事課 歩兵中佐 大城戸三治殿

同 三等主計 平井豐一殿

滿洲國實業部總務司長 高橋康順殿

拓務省管理局地方課長 一番瀨佳雄殿

資源局總務部庶務課長 植村甲午郎殿

出席者

- | | | | |
|-------------|--------|-------------------------|--------|
| 三井物産株式會社取締役 | 向井忠晴氏 | 三菱商事株式會社
常 務 取 締 役 | 加藤恭平氏 |
| 合名會社大倉組重役 | 河野久太郎氏 | 王子製紙株式會社參與 | 横井半三郎氏 |
| 横濱正金銀行常務取締役 | 水津彌吉氏 | 富士瓦斯紡績株式會社
專 務 取 締 役 | 鹿村美久氏 |

- 朝鮮銀行理事 松田義雄氏
- 日本興業銀行總裁 結城豐太郎氏
- 富士興業株式會社社長 澁澤正雄氏
- 東京商工會議所理事 木村増太郎氏
- 東京商工會議所主事 竹内謙二氏
- 第一生命保險相互會社長 矢野恒太氏
- 國際通運株式會社社長 中野金次郎氏
- 日滿亞麻紡織株式會社取締役會會長 中川正左氏
- 日本商工會議所主事 依田信太郎氏
- 常任幹事 篠崎嘉郎氏

結城副會長開會の挨拶を述べたる後、關東軍小池囑託は治外法權により日滿人間に差別的現象を生じて種々憂慮すべき問題を惹起しつゝある實狀並に邦人の滿洲投資及び經營運用上に於ても亦種々なる不便不都合を生ずること多きを以て、滿洲國公司法を急速に改正さるべき點等に就て詳細なる説明を加へ、續いて平井主計も同様治外法權の我が經濟的進出並に兩國人の融和上に及ぼす影響に就て説明され右了つて一同晚餐を共にし、食後引續き懇談に移り、治外法權撤廢問題を中心に、鐵道附屬地問題等に關し種々意見の交換を行ひ午後九時散會せり。

(四) 第四回懇談會 昭和九年七月三日午後四時

自由企業に就て

來賓

陸軍省軍事課

砲兵少佐

秋永月三殿

同

陸軍一等主計

平井豐一殿

- 同 步兵大尉 増田繁雄殿
- 關東軍特務部囑託 小池 寛殿
- 滿洲國財政部理財司長 田中 恭殿
- 滿洲國總務廳司計科長 生松 淨殿
- 外務省東亞局事務官 北澤直吉殿
- 資源局總務部庶務課長 植村甲午郎殿

出席者

- 大日本鹽業株式會社 常務取締役 島田毅一氏
- 貴族院議員 大藏公望氏
- 東亞煙草株式會社社長 金光庸夫氏
- 第一生命保險相互會社長 矢野恒太氏
- 東邦電力株式會社社長 松永安左衛門氏
- 大日本製糖株式會社長 藤山愛一郎氏
- 日本石油株式會社 栗田淳一氏
- 株式會社大林組取締役 松井清足氏
- 朝鮮銀行主事 中野正永氏
- 日本郵船株式會社 寺井久信氏
- 東洋拓殖株式會社 松本昌五郎氏
- 中日實業株式會社 高木陸郎氏(代)
- 大倉商事株式會社 中本 卓氏
- 臺灣製糖株式會社 多田武幹氏
- 三井物産株式會社 大野敬吉氏
- 日魯漁業株式會社 常務取締役 藤田秀雄氏
- 王子製紙株式會社社長 藤原銀次郎氏(代)
- 正金銀行常務取締役 水津彌吉氏
- 大同セメント株式會社 常務取締役 兒玉國雄氏
- 日清紡績株式會社 西村傳八氏
- 合資會社清水組 高村耀一氏
- 三菱商事株式會社 三宅川百太郎氏(代)

三菱重工業株式會社 取 締 役	伊藤達三氏	大倉鑛業株式會社 專務 取 締 役	岩瀬徳三氏
富士瓦斯紡績株式會社	戸坂隆吉氏	日清製粉株式會社 取 締 役	加藤徳雄氏
日本銀行	新木榮吉氏	豐年製油株式會社社長	杉山金太郎氏
古河電氣工業株式會社 取 締 役	花輪惟精氏	滿洲セメント株式會社 取 締 役	伊藤精七氏
函館商工會議所會頭	岡本康太郎氏	日本興業銀行總裁	結城豊太郎氏
國際運送株式會社社長	中野金次郎氏	東京商工會議所理事	木村増太郎氏
日本商工會議所主事	依田信太郎氏	東京商工會議所主事	竹内謙二氏
常任幹事	篠崎嘉郎氏		

結城副會長より開會の挨拶を述べたる後、平井主計より滿洲國に於ける自由企業に關する詳細なる類別説明あり、次で田中理財司長は滿洲に於ける金融と中央銀行の狀況、小池囑託は現地に於ける産業統制の實狀、生松司計科長は康徳元年度の歳計豫算に就て説明さるゝ所あり、引續き懇談を爲し午後六時散會せり。

(五) 第五回懇談會 昭和九年十一月十四日午後四時半
滿洲國の財政經濟に就て

來 賓

陸軍省軍事課 歩兵中佐	大城戸三治殿	同	一等主計	平井豊一殿
外務省東亞局事務官	武内龍次殿	外務省通商局事務官		法華津孝太殿
拓務省殖産局交通課長	稻垣征夫殿	拓務省殖産局商工課長		副島勝殿
拓務省管理局企畫課長	森重干夫殿	商工省貿易局事務官		本郷壽次殿
大藏省理財局國庫課長	湯本武雄殿	關東軍特務部事務官(兼)		菱沼勇殿
滿洲國總務廳主計處特別會計科長	毛利英於薫殿	滿洲國財政部理財司 銀行科長		松崎健吉殿

出席者

横濱正金銀行 常務 取 締 役	水津彌吉氏	三菱商事株式會社 常務 取 締 役	加藤恭平氏
大同セメント株式會社 社長	淺野良三氏	合名會社大倉組重役	河野久太郎氏
日本興業銀行總裁	結城豊太郎氏	富士興業株式會社社長	澁澤正雄氏
日滿亞麻紡織株式會社 取 締 役 會 長	中川正左氏	東京商工會議所理事	木村増太郎氏
東京商工會議所主事	竹内謙二氏	日本商工會議所主事	依田信太郎氏
常任幹事	篠崎嘉郎氏		

結城副會長より開會の挨拶を述べたる後滿洲に於ける資源開發、企業統制問題に就て菱沼事務官及平井主計より、滿洲集團移民に就て森重企畫課長、平井主計、毛利特別會計科長等より、滿鐵關係の交通政策に就て稻垣交通課長より、

滿洲國財政金融問題に就て毛利特別會計、松崎銀行兩科長より夫々實情及意見等を述ぶる所あり右了つて一同晚餐を共にしたる後更に引續き懇談を交へ午後八時半閉會せり。

(六) 第六回懇談會 昭和十年二月二十四日午後五時 於日本工業俱樂部

滿洲に於ける諸問題に就て

來賓

對滿事務局	總裁 林 銑十郎閣下	同	次 長 川越 丈雄閣下
同	庶務課長 增田 甲子七殿	同	殖産課長 竹内 徳治殿
同	行政課長 山越 道三殿	同	秘書官 有末 精三殿
同	事務官 河村 參郎殿	同	同 佐々木 高信殿
同	同 岩畔 豪雄殿	同	同 武内 龍次殿
同	同 東福 清次郎殿	同	同 渡邊 武殿
同	秘書 鈴木 武殿	同	陸軍歩兵中佐 大城 戸三治殿
同	陸軍歩兵大尉 増田 繁雄殿	同	陸軍一等主計 平井 豊一殿

出席者

日本興業銀行總裁	結城 豊太郎氏	大阪商工會議所會頭	森 平兵衛氏
大阪商工會議所副會頭	片岡 安氏	富士興業株式會社社長	澁澤 正雄氏
大同セメント株式會社長	淺野 良三氏	大倉商事株式會社社長	玉木 誠次郎氏
日滿亞麻紡績株式會社長	中川 正左氏	東洋拓殖株式會社總裁	高山 長幸氏
三菱銀行取締役會長	申田 萬藏氏	正金銀行常務取締役	水澤 彌吉氏
大阪商工會議所理事	高柳 松一郎氏	名古屋商工會議所理事	三浦 一氏
橫濱商工會議所理事	園田 寛氏	新潟商工會議所理事	塚野 俊郎氏
東京商工會議所理事	木村 増太郎氏	日本商工會議所副理事	依田 信太郎氏
常任幹事	篠崎 嘉郎氏		

今回新に對滿事務局開設せられたるを機として晚餐懇談會を開催す、先づ簡易なる懇談を試みたる後午後六時半開宴 結城副會長より挨拶を述べたるに對して林總裁より謝辭あり、了つて別室に於て懇談會に移り滿洲諸問題に就きて主客 隔意なき意見交換を爲し午後九時閉會せり。

(七) 第七回懇談會 昭和十年二月十三日午後四時

日滿支提携に就て

外務省東亞局事務官 太田一郎殿
 陸軍省軍事課陸軍一等主計 平井豐一殿
 中日實業株式會社副總裁 高木陸郎殿
 滿鐵會社囑託 野田蘭藏殿

出席者

日本商工會議所會頭 男爵 鄉 誠之助氏
 東京商工會議所 中野金次郎氏
 國際通運株式會社社長 淺野良三氏
 大同セメント株式會社社長 中川正左氏
 日滿亞麻紡織株式會社社長 串田萬藏氏
 三菱銀行取締役會長 安川雄之助氏
 東洋レーヨン株式會社社長 土岐市太郎氏
 高尾鐵工所專務取締役 中井勳作氏
 日本製鐵株式會社社長 窪田四郎氏
 日魯漁業株式會社社長

大阪商工會議所會頭 森 平兵衛氏
 富士瓦斯紡績株式會社專務取締役 鹿村美久氏
 廣島商工會議所會頭 山縣元兵衛氏
 東洋拓殖株式會社總裁 高山長幸氏
 第一生命保險相互會社社長 矢野恒太氏
 大倉礦業株式會社社長 島岡亮太郎氏
 取締役員會長 兒玉謙次氏
 橫濱正金銀行頭取 金光庸夫氏
 東亞煙草株式會社社長 正田貞一郎氏
 日清製粉株式會社社長

合名會社扇屋吳服店 森 濱三郎氏
 代表社員 森 濱三郎氏
 京都商工會議所理事 森 口繁治氏
 橫濱商工會議所理事 園 田 寬氏
 門司商工會議所理事 田 中 次郎氏
 東京商工會議所理事 木村増太郎氏

大阪商工會議所理事 高柳松一郎氏
 名古屋商工會議所理事 三 浦 一氏
 博多商工會議所理事 長 田 義 彦氏
 新潟商工會議所理事 塚 野 俊 郎氏
 常任幹事 篠 崎 嘉 郎氏

中野常務理事の開會の挨拶に次で各自最近に於ける視察に基き左の順序にて

- 一、最近に於ける支那の動向と我が對策確立の要 加藤 鮮銀 總裁
- 二、日支關係の轉換と經濟提携策並に支那要人の意見 高木 中日實業副總裁
- 三、日支關係の好轉と實際的提携方策並に滿支經濟關係改善の機運 十河 前滿鐵理事
- 四、滿洲農村の窮乏と北支經濟關係 野田 滿鐵囑託
- 五、最近に於ける日支關係の真相と經濟提携の實行策 太田 外務事務官
- 六、日支關係の轉換と迎合的態度の不可 今井 陸軍歩兵少佐
- 七、日滿支經濟提携に就て 平井 陸軍一等主計

大體右の如き趣意に於ける事項に就きて事實及意見（昭和十年三月刊行「日滿支提携に關する座談會記事」參照）を述ぶる所あり六時晚餐會を共にしたる後更に座談會に移り支那實業家の態度、浙江財閥の地位、現銀の流出、棉麥借款、

支那ソヴィエトの傾向、支那の統一、日支物々交換と交易所設置問題其他各方面に互る緊切問題に關して質疑應答式に懇談を重ね午後九時閉會せり。

五、講話會

(一) 第一回講話會 昭和九年九月二十八日午後四時

滿洲の交通政策に就て

講 師 參謀本部第三部長 陸軍少將 後 宮 淳閣下

本協會の評議員其他出席、中野常務理事より開會の挨拶を述べたる後後宮少將より滿洲事變に伴ふ滿洲交通機關の體系統制上に大なる變化を生じて、滿鐵の北進、鐵路總局の創設に至れる事情其他に就て懇切詳密なる説明あり、終つて引續き懇談に移り種々意見の交換を遂げ午後七時散會せり。

(二) 第二回講話會 昭和九年十月三日午後四時

在滿機構と滿露國境の狀勢に就て

講 師 陸軍次官 橋 本 中 將閣下
平井一等主計殿

本協會の評議員其他出席者二十三氏、結城副會長より閉會の挨拶を述べ次で橋本次官より在滿機構並に滿露國境の情勢に關して詳密なる説明あり、引續き質問應答を重ねて午後七時散會せり。

(三) 第三回講話會 昭和九年十月十四日午後四時

最近の滿洲事情に就て

講 師 貴族院議員 男爵 大 藏 公 望閣下

本協會の評議員其他出席者十九氏、結城副會長より開會の挨拶を述べ、次で大藏男爵より最近滿洲視察の結果に基きて在滿機構、治安狀況、産業交通狀態其他に關し詳細なる講話を試みられ、引續き懇談に移り午後七時散會せり。

(四) 第四回講話會 昭和九年十一月二十日午後三時

滿洲國稅關通關事務に就て

講 師 大連稅關長 福 本 順 三 郎氏

京濱間に於ける海運業者、運送業者、輸出貿易業者其他各方面の出席者約六十名、中野常務理事開會の挨拶を述べ福本稅關長は首題下に滿洲國に於ける關稅率改正の事情、通關手續に要する日數問題、保稅倉庫設置問題に關して講演(昭和九年十二月刊行「滿洲國稅關通關事務に就て」参照)を爲し次で

(一)大連税關に於ける税關貨物取扱人制度に關する件 (二)保税輸送に關する件 (三)大連税關に於ける輸入雜貨に對する検査能力充實の件 (四)大連税關に於ける發送承認スタンプ押捺に關する件 (五)大連税關に於ける輸入貨物の書類通關と現品検査通關との件數比率に關する件 (六)日本貨幣換算額に關する件
等の質問事項に對して一々説明回答を與へ夫れより更に通關問通に就きて一問一答式座談會に移り右了つて午後五時中野常務理事より閉會の辭を述べ頗る盛會裡に散會せり。

(五) 第五回講話會 昭和九年十一月二十四日午後三時
於名古屋工商會議所

滿洲國税關通關事務に就て

講師

大連税關長 福本 順三 郎氏

本協會主催愛知縣、名古屋市及名古屋商工會議所後援の下に開催愛知縣滿蒙輸出組合員を中心に出席者約五十名篠崎常任幹事より開會の挨拶を述べ福本税關長は東京に於けると略同様の講演を試みたる後引續き通關問題に關し出席者との間に座談會を催し各種の具體的質疑に對して詳細なる説明答辯を爲す所あり午後五時散會せり。

(六) 第六回講話會 昭和十年一月十四日午後二時

滿洲の棉作と昭和九年の作柄に就て

講師

滿鐵農事試驗場 遼陽棉花試驗地主任 寺田 慎一氏

熱河に於ける棉作に就て

講師

京都帝國大學教授 榎本 中衛氏

拓務省、農林省、資源局、東京及京都帝國大學、滿鐵會社、日滿棉花協會、東亞經濟調查局、東拓會社等よりの來賓三十氏、會員側出席八氏、中野常務理事より開會の挨拶に加へて寺田、榎本兩氏を紹介すれば講演者は各首題に有益なる講演(昭和十年二月刊行「滿洲の棉作と昭和九年の作柄に就て、熱河に於ける棉作に就て」参照)を爲し午後四時頗る盛會裡に閉會せり。

(七) 第七回講話會 昭和十年一月十六日午後四時

日滿經濟提携方策と其の批判

講師

滿鐵囑託野田 蘭藏氏

本協會評議員其の他の出席者十二氏、澁澤理事より開會の挨拶を述べたる後野田滿鐵囑託は日滿經濟提携の重要性、提携方策と統制經濟、從來に於ける經濟工作と其批判、滿鐵改組問題、大陸政策と日滿經濟提携と云へるが如き諸問題其の他政治、經濟の各方面に互る事項に就きて縦横無碍の熱辯(昭和十年二月刊行「日滿經濟提携方策と其の批判」参照)を振ふ所あり午後六時半閉會せり。

(八) 第八回講話會 昭和十年二月二十六日午後三時

永豐鎮移民の實況

講演者 拓務省第一次移民團指導員 山崎芳雄氏

湖南營移民の實況

講演者 同 第二次移民團指導員 宗光彦氏

外務省、對滿事務局、滿洲國公使館、丁抹公使館、滿鐵、移民會社、植民學校、新聞通信社其他東京市內會社商店關係者並に本協會々員等の出席者四十六名、中野常務理事より開會の挨拶に兼ねて前記兩氏を紹介したる後兩氏は夫々滿洲武裝移民刻苦經營の實況に關して熱心詳密なる講話(昭和十年三月刊行「滿洲移民の實況」参照)を爲し五時半右了つて引續き滿洲に關する活動寫眞の映寫を觀覽に供し午後七時閉會せり。

(九) 第九回講話會 昭和十年三月十四日午後二時
於東京實業組合聯合會

滿洲國の貿易と關稅制度に就て

講演者 駐日滿洲國公使館商務官 內海幹一氏
大阪辦公處關稅部長

滿洲に於ける鐵道發達の沿革並に滿鐵貨物運賃に就て

講演者 滿鐵東京支社鐵道係主任 安增一雄氏

今回各地の要望に應じて滿洲事情座談會を開催することに決し其第一回を東京實業組合聯合會に於て開く、駐日滿洲國公使館よりは商務官大阪辦公處關稅部稅關鑑査官兼商務秘書官六郷慎也氏も列席、本協會よりは高柳書記出席し、聯合會長星野錫、總務主事橫溝瑟惠氏外組合員五十二氏出席、星野會長の紹介に次で高柳書記より開會の挨拶を述べたる後前記順序にて兩氏の講演(昭和十年五月刊行「滿洲に於ける關稅及鐵道運賃に就て」参照)あり引續き關稅、鐵道運賃に就きて一問一答式座談會に移り何れも頗る満足の體にて午後五時過散會せり。

(一〇) 第十回講演會 昭和十年三月十五日午後二時
於橫濱貿易會館

滿洲國の貿易と關稅制度に就て

講演者 駐日滿洲國公使館商務官 內海幹一氏
大阪辦公處關稅部長

滿洲に於ける鐵道發達の過程並に滿鐵貨物運賃に就て

講演者 滿鐵東京支社鐵道係主任 安增一雄氏

滿洲國公使館側より大阪辦公處六郷稅關鑑査官も列席、本協會側よりは高柳書記出張し、橫濱貿易協會々頭上甲信弘氏、同副會頭磯野庸幸氏、常任理事齋藤眞氏外會員十五名出席、上甲會頭の紹介、高柳書記の開會の挨拶に次で内海、安增兩氏は夫々東京實業組合聯合會に於けると略同様の講演を爲し了つて更に滿洲國の通關手續、鐵道運賃等具體的事項に就きて座談に入り盛會裡に午後五時散會せり。

(一一) 第十一回講話會 昭和十年三月十六日午後二時
於名古屋商工會議所

滿洲國の貿易と關稅制度に就て

講 演 者 駐日滿洲國公使館商務官 內 海 幹 一 氏
大阪辨公處關稅部長

滿洲に於ける鐵道發達の沿革と鐵道網に就て

講 演 者 滿鐵大阪出張所員 渡 邊 綱 鏑 氏

滿洲國公使館大阪辨公處六郷稅關鑑査官も列席本協會よりは高柳書記出張し、名古屋市商工課長中川貞三氏、名古屋商工會議所理事三浦一氏、同主事玉川安治氏、愛知縣滿蒙輸出組合常務理事野尻啓藏氏、同組合書記長岩本徳明氏外商工會議所及輸出組合關係者三十四名出席、中川市商工課長の紹介、高柳書記の開會の挨拶に次で内海、渡邊兩氏より講演あり引續き座談會に移り通關手續、鐵道運賃に就きて具體的の質問應答を重ね盛會裡に午後五時散會せり。

六、調 査

一、昭和九年四月及八月の兩回に互り大豆暴落の對策、並に鐵道運賃、關稅問題に關し篠崎常任幹事は滿洲に出張之れが調査を爲し『滿洲大豆暴落とその對策』『滿洲に於ける鐵道運賃、關稅に關する報告』を以て廣く會員其の他の方面に頒布したり。

二、裏日本と北鮮との連絡緊密化するに至れる狀勢に鑑み財團法人東亞經濟調查局と提携して九年七月篠崎常任幹事は

同局竹正正巳氏と共に新潟、富山、石川、福井の四縣下に出張して其の現狀を調査し資料『對滿商港として見たる裏日本の諸港灣』を刊行廣く頒布せり。

七、報 告 會

滿洲大豆暴落と其の對策を中心とする滿洲經濟界の情勢に就て、篠崎常任幹事は約一ヶ月間に互り滿洲各地の事情を調査せるを以て、歸來東京を振り出しに各地に於て報告會を開催したり。爾來諸般の經濟事情に關し調査を完了したる場合は書面報告の外、親しく各地に於て報告會を催すことゝしたり、即ち左の如し。

第一回報告會

滿洲大豆暴落と其の對策に就て 常任幹事 篠 崎 嘉 郎

昭和九年五月十一日 於東京商工會議所

第二回報告會

同 上 常任幹事 篠 崎 嘉 郎

同 五月十九日 於名古屋商工會議所

第三回報告會

同 上 常任幹事 篠 崎 嘉 郎

同 五月二十八日 於博多商工會議所

第四回報告會

同上

常任幹事 篠崎嘉郎

同 五月二十九日 於門司商工會議所

第五回報告會

同上

常任幹事 篠崎嘉郎

同 五月三十日 於廣島商工會議所

第六回報告會

同上

常任幹事 篠崎嘉郎

同 五月三十一日 於神戸商工會議所

第七回報告會

同上

常任幹事 篠崎嘉郎

同 六月一日 於大阪商工會議所

第八回報告會

滿洲に於ける鐵道運賃、關稅に關する調査報告

常任幹事 篠崎嘉郎

昭和九年九月二十一日 於東京商工會議所

第九回報告會

對滿商港として見たる裏日本諸港灣と滿洲に於ける鐵道運賃、關稅改訂問題

常任幹事 篠崎嘉郎

同 十月二十日 富山商工會議所に於ける於北本州商工會議所聯合會

第十回報告會

事變後に於ける滿洲新狀勢と運賃、關稅に就て

常任幹事 篠崎嘉郎

同 十月二十二日 於新潟商工會議所

八、刊行物の頒布

昭和八年十二月事務開始以來昭和十年三月迄に滿洲の財政經濟事情其他の問題に關する左記の刊行物を編纂發行し、會員始め關係各方面に頒布せり。

一、九年三月 「會報」

二、同五月 滿洲國々稅一覽表、滿鐵關係會社一覽表、大連稅關課稅關係一覽表

三、同五月 「大豆暴落對策問題報告資料」

- 四、同 五月 「建設途上の滿洲國」
- 五、同 六月 「滿洲大豆暴落とその對策」
- 六、同 六月 「事變後新設されたる滿洲關係會社」
- 七、同 六月 「滿鐵關係會社業績調」
- 八、同 六月 通報第一號「滿洲國に於ける治外法權の撤廢」
- 九、同 七月 通報第二號「康徳元年度滿洲帝國第一次豫算」
- 一〇、同 七月 「滿洲國財政狀態の概要及内國稅徵收事務の現況」
- 一一、同 八月 通報第三號「滿洲自衛移民實施概況」
- 一二、同 九月 「鐵道貨物運賃調」
- 一三、同 十月 「滿洲に於ける鐵道運賃、關稅に關する報告、附大豆暴落應急對策の必要解消」
- 一四、同 十月 「對滿商港として見たる裏日本の諸港灣」
- 一五、同 十月 通報第四號「滿洲事變後に於ける哈爾濱商の動向」並に「在留邦人と哈爾濱特別市稅」
- 一六、同 十一月 通報第五號「滿洲國第二次暫定的關稅改正理由と新舊稅率對照」
- 一七、同 十二月 通報第六號「滿洲國關稅、滿鐵運賃に對する東京實業組合の希望」
- 一八、同 十二月 「滿洲國稅關通關事務に就て」

- 一九、十年一月 通報第七號「滿洲國に於ける棉作と昭和九年度の作柄」
- 二〇、同 二月 通報第八號「最近日滿兩國に開催される博覽會」
- 二一、同 二月 「日滿經濟提携方策と其の批判」
- 二二、同 二月 「滿洲の棉作と昭和九年の作柄に就て、熱河に於ける棉作に就て」
- 二三、同 二月 「滿洲國の交通に就て」
- 二四、同 三月 通報第九號「北鐵線貨物運賃改正に就て」
- 二五、同 三月 「日滿支提携に關する座談會」
- 二七、同 三月 「滿洲移民の實況」

第五 庶 務

- 一、滿洲帝國 皇帝陛下奉迎に關する件
 滿洲帝國 皇帝陛下の御來訪を迎ふるに當り、本協會は奉迎の辭並に記念品を獻上することとなり、昭和十年三月二十日滿洲國 皇帝陛下接伴員に對し東京府を経て獻上願を提出し御嘉納の趣回答に接せるを以て、四月十日結城副會長、篠崎常任幹事は御旅館赤坂離宮に伺候し、奉迎辭を捧呈し左記記念品を獻上する所ありたり。

- 一、能樂木彫 翁置物 一組 牧 俊 高 謹 作
- 二、會則改正に關する件

昭和九年十一月三十日開催されたる第一回評議員會に於て會則第三條、第五條、第十一條第一項は左の如く改正されたり。

記

理由・會務の増進並に朝鮮支部開設に伴ひ改正の必要あるに因る。改正條項は左の如し。

- 一、第三條 本會ハ本部ヲ東京ニ、支部ヲ新京及ヒ京城ニ置ク
- 一、第五條 本會ハ左ノ者ヲ以テ會員トス
 - 一、日本商工會議所加入ノ商工會議所及之ニ準スル團體ニシテ本會ノ目的ニ賛スルモノ
 - 二、滿洲國商會及工會ニシテ本會ノ目的ニ賛シ滿洲國實業部ノ許可ヲ受ケタルモノ
 - 三、其他日滿兩國公共團體、組合、銀行、會社及個人ニシテ本會ノ目的ニ賛スルモノ
- 一、第十一條第一項 本會ノ經費ハ會費、補助金及寄附金收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

三、事務開始

昭和八年十二月一日、本部事務所を日本商工會議所内に、滿洲支部を大連商工會議所内に設置し、夫々事務を開始せり。

四、文書收發件數

昭和八年十二月一日事務開始以來、同十年三月三十一日に至る文書收發件數左の如し。

受 信	二、六五一件
發 信	一、〇五九件

五、祝辭祝電に關する件

- (一) 滿洲國 皇帝陛下御即位慶祝 昭和九年三月一日の滿洲帝國誕生、皇帝陛下御即位記念盛典に際し、同國政府外交部大臣謝介石閣下宛郷會長より慶祝電報を奉呈したる所、三月七日同國宮内府大臣沈瑞麟閣下より謝電を接受せり。
- (二) 大連新聞廣告祭に對する祝辭 昭和九年五月十日大連新聞社主催第五回廣告祭開催に付祝辭を贈呈せり。
- (三) 滿洲工業會發會式に對する祝電 昭和九年九月二十八日奉天やまとホテルに於て滿洲工業會發會式舉行に付祝電を贈呈せり。
- (四) 出光佐三氏滿洲國名譽領事就任に對する祝電 昭和十年二月八日評議員出光佐三氏(門司商工會議所會頭)滿洲國名譽領事に就任せられ就任披露を催されたるに付祝電を贈呈せり。
- 六、弔詞見舞等に關する件

- (一) 昭和九年三月二十日函館市大火に付函館商工會議所會頭宛見舞狀を發送せり。
 - (二) 昭和九年六月五日故元帥海軍大將侯爵東郷平八郎閣下の國葬執行に付弔詞及眞榊一對を贈呈せり。
 - (三) 昭和九年七月十二日本協會幹事新京商工會議所理事大垣鶴藏氏逝去に付弔詞を贈呈せり。
 - (四) 昭和九年九月二十一日關西地方大風水害に對し大阪、京都、神戸及堺の各商工會議所宛見舞電報を發送せり。
 - (五) 昭和十年三月二十二日理事平井熊三郎氏(京城商工會議所副會頭)逝去せられたるに付弔電を發したり。
 - (六) 昭和十年三月三十日理事葛起翔氏(興安西省商會々長)逝去に付き弔詞を贈呈せり。
- 七、出張に關する件

- (一) 會員勸誘其他打合せの爲め、篠崎常任幹事は昭和九年二月八日出發名古屋、京都、大阪、神戸地方へ出張し同月十二日歸任せり。
- (二) 滿洲經濟事情調査の爲め篠崎常任幹事は四月七日滿鮮地方に出張五月三日歸任せり。
- (三) 滿洲大豆暴落對策問題を中心とする滿洲經濟問題報告會に出席の爲め篠崎常任幹事は五月十八日名古屋に出張し二十日歸任せり。
- (四) 博多、門司、廣島、神戸、大阪の各所に於ける滿洲經濟問題報告會に出席の爲め篠崎常任幹事は五月二十六日該地方に出張し六月四日歸任せり。
- (五) 會員勸誘の件に就き篠崎常任幹事は六月七日大阪に出張し同十二日歸任せり。

- (六) 裏日本對滿洲經濟交通事情調査の爲め篠崎常任幹事は七月十六日新潟、富山、福井の各縣下へ出張し同二十一日歸任せり。
- (七) 關稅鐵道運賃問題調査の爲め篠崎常任幹事は八月五日滿鮮地方に出張し九月九日歸任せり。
- (八) 福本大連稅關長講演會開催打合せ其の他の用務を帯び篠崎常任幹事は十月十四日大阪に出張し、同十七日歸任せり。
- (九) 富山に於て北本州商工會議所聯合會の開催を機とし、裏日本對鮮滿交通事情調査及滿洲の運賃關稅問題報告の爲め篠崎常任幹事は十月十九日富山、新潟へ出張し同二十三日歸任せり。
- (一〇) 福本大連稅關長出迎並に講演會打合せの爲め篠崎常任幹事は昭和九年十一月十四日發神戸、大阪に出張し同十六日歸任せり。
- (一一) 名古屋に於ける福本稅關長講演會開催の用務を帯び篠崎常任幹事は十一月二十三日出發名古屋に出張し、同二十六日歸任せり。
- (一二) 福井市に於ける對滿貿易振興座談會臨席の用務を帯び篠崎常任幹事は昭和十年二月六日出發福井、敦賀に出張し、同八日歸任せり。
- (一三) 滿洲經濟事情座談會開催の用務を帯び高柳書記は三月十五日出發横濱、名古屋に出張し、同十七日歸任せり。
- (一四) 朝鮮支部開設式參列の用務を帯び篠崎常任幹事は三月三十日出發朝鮮京城に出張し、四月四日歸任せり。

八、招待歓迎に關する件

- (一) 滿洲國鄭國務總理大臣一行歓迎會 昭和九年四月二日午後三時日本工業俱樂部に於て東京商工會議所、日本經濟聯盟會、日本工業俱樂部及日華實業協會の四團體と共同主催の下に滿洲國訪日修聘特使鄭國務總理大臣、熙財政部大臣一行を招待し歓迎茶話會を開催せり。
- (二) 商工視察團招待會 昭和九年四月二十七日午後六時日本工業俱樂部に於て東京滿蒙輸出組合と聯合主催にて、滿洲國協和會及泰東日報社共同主催に係る滿洲國人の内地商工視察團一行を招待し歓迎晚餐會を開催せり。
- (三) 滿鐵幹部招待會 昭和九年三月二十六日午後六時木挽町峰龍に於て滿鐵會社林總裁、八田副總裁、村上、竹中、大淵三理事を招待し晚餐會を開催せり。
- (四) 星野、菱沼氏等招待會 昭和九年十月十八日午後六時星ヶ岡茶寮に於て滿洲國財政部總務司長星野直樹、同特別會計科長毛利英於菟、同理財司銀行科長松崎健吉、關東軍特務部員菱沼勇、並に當日講演を依頼せる男爵大藏公望の五氏を招待し晚餐會を開催せり。
- (五) 昭和九年十一月五日 滿洲國參謀袁氏一行及實業部大臣張燕卿氏一行歓迎會を日本工業俱樂部に於て東京商工會議所、日本經濟聯盟會、日本工業俱樂部及日華實業協會の四團體と共同主催の下に開催せり。
- (六) 昭和九年十一月二十日 福本大連稅關長一行招待會 同日午後六時福本稅關長講演會終了後同稅關長一行を星ヶ岡茶寮に招待し晚餐會を開催せり。

(七) 昭和九年十一月三十日 第二回定期總會出席者懇親會 同日午後五時半日本工業俱樂部に於て第二回總會に臨席の來賓並出席會員約八十名を招待し懇親晚餐會を開催せり。

(八) 昭和十年一月十八日 滿洲國臧民政部大臣一行歓迎會 同日正午日本工業俱樂部に於て東京商工會議所、日本經濟聯盟會、日本工業俱樂部及日華實業協會の四團體と共同主催の下に滿洲國臧民政部大臣一行を招待し歓迎午餐會を催したり。

九、役員及幹事異動に關する件

(一) 役員の異動

本協會創立當初の會長、副會長、理事及び監事(評議員を除く)は昭和八年十一月十八日の創立總會に於て銓衡委員に一任されたる結果、同日を以て直に郷會長以下三十四氏の推薦選任を見たり。

評議員の選任も亦創立總會に於て理事一任となれる結果理事會に於ける銓衡を經昭和九年六月十九日附を以て大阪商工會議所會頭稻畑勝太郎氏外六十九氏に對して推薦狀を發送し何れも其の承諾を得たり。滿洲支部側評議員は昭和九年八月十五日を以て邦人側大連商工會議所會頭高田友吉氏外三十四氏、滿洲國人側大連市商會會長張本政氏外二十九氏(合計六十五名)の選任を了し、引續き同年九月十三日を以て滿洲國人側奉天省海城縣商會會長辛子香氏外四氏の追加選任を爲したり。

而して其後に於ける役員の異動は左の如し。

(イ)副會長大阪商工會議所會頭稻畑勝太郎氏は同會議所會頭辭任の事情により昭和九年九月十四日副會長辭任届を提出せられたり。

(ロ)評議員滿洲化學工業株式會社社長男爵斯波忠三郎氏は昭和九年十月三日逝去せられたり。

(ハ)評議員大阪商船株式會社社長堀啓次郎氏は本年七月同社退任の事情により評議員辭任の申出ありたるに付十月二十五日新社長村田省藏氏を評議員に推薦せり。

(ニ)大阪商工會議所會頭森平兵衛氏を昭和九年十月二十五日附評議員に推薦したり。

(ホ)住友合資會社總理事小倉正恒氏を昭和九年十月二十五日附評議員に推薦したり。

(ヘ)中山太陽堂主中山太一氏を昭和九年十一月七日附評議員に推薦したり。

(ト)副會長稻畑勝太郎氏大阪商工會議所會頭退任の事情に依り昭和九年九月十日辭任、缺員中の處同年十一月二十九日評議員會に於て大阪商工會議所會頭森平兵衛氏副會長に補缺選舉せられたり。

(チ)前奉天商工會議所會頭庵谷忱氏理事を辭任せられたるに依り昭和九年十一月二十九日評議員會に於て後任に奉天商工會議所會頭石田武彦氏補缺選舉せられたり。

(リ)事務進捗を期する爲め東京に理事五名増員することとなり昭和九年十一月二十九日評議員會に於て選舉左の五氏當選せられたり。

三菱商事株式會社
取締役 會長

三宅川百太郎氏

三井物産株式會社
代表取締役

南條金雄氏

大倉商事株式會社社長

玉木誠次郎氏

大同セメント株式會社
社長

淺野良三氏

富士瓦斯紡績株式會社
専務取締役

鹿村美久氏

(ヌ)朝鮮支部開設の爲め常務理事一名設置することとなり昭和九年十一月二十九日理事會に於て互選の結果理事朝鮮商工會議所會頭賀田直治氏當選せられたり。

(ル)朝鮮に評議員若干名増員することとなり昭和九年十一月三十日總會に於て選舉左の十氏當選せられたり。

朝鮮殖産銀行頭取

有賀光豊氏

朝鮮郵船株式會社社長

森辨治郎氏

朝鮮運送株式會社社長

竹島銀太郎氏

釜山商工會議所會頭

香椎源太郎氏

朝鮮金融組合聯合會
會長

矢鍋永三郎氏

朝鮮信託株式會社社長

谷多喜麿氏

朝鮮米倉株式會社社長

松井房治郎氏

朝鮮火災海上保險
株式會社社長

石川登盛氏

東洋拓殖株式會社理事

田淵勳氏

朝鮮銀行理事

松原純一氏

(オ)評議員平井熊三郎氏(京城商工會議所副會頭)は昭和十年三月二十一日逝去せられたり。

(ワ)評議員葛起翔氏(興安西分省林西縣商會會長)は昭和十年三月九日逝去せられたり。

(二)幹事の異動

(イ)幹事新京商工會議所理事大垣鶴藏氏は昭和九年七月逝去せり。

(ロ)幹事奉天商工會議所理事野添孝生氏は昭和九年九月同會議所理事を退任せられたるに依り幹事を辭任さる、而

して兒玉翠靜氏新たに同所理事に就任せられたるに付九月十日附を以て幹事を委囑せり。

(ハ)幹事哈爾濱日本商工會議所理事代理尾藤正義氏は九月同所理事代理を退任せられたるに依り其の後任新理事中西仁三氏を幹事に委囑せり。

(ニ)幹事京都商工會議所理事小林季吉氏は昭和九年九月同所理事を退任せられたり。

(ホ)京都商工會議所理事森口繁治氏に昭和九年十一月二十八日附幹事を依囑せり。

(ヘ)新京商工會議所理事小林九郎氏に昭和十年一月二十二日附幹事を依囑せり。

(ト)朝鮮支部開設の爲め常任幹事を設置せらるゝことゝなり昭和十年一月二十五日附朝鮮商工會議所理事伊藤正愨氏に朝鮮支部常任幹事を依囑せり。

一〇、其の他

昭和九年十一月三十日定期總會出席會員中より新宿御苑拜觀希望者を募り同日午前九時拜觀者九十六名に附添ひ御苑拜觀を行へり。

第六會 計

一、昭和九年度收支豫算

本協會の昭和九年度經費收支豫算は昭和八年十一月十八日の創立總會に提出可決せられたるものにして左の如し。

昭和九年度收支豫算

収入之部		
一、會費		八、五〇〇圓
二、寄附金		一〇、〇〇〇
計		一八、五〇〇
支出之部		
一、本部經費		一二、四五〇圓
内 譯		
一、會議費		五〇〇
二、給與費		四、八〇〇
三、事業費		三、八〇〇
四、旅費		二、〇〇〇

五、接待費	一、〇〇〇
六、雜費	三五〇
二、滿洲支部經費	六、〇五〇
內 譯	
一、會議費	二五〇
二、給與費	二、四〇〇
三、事業費	一、七〇〇
四、旅費	一、〇〇〇
五、接待費	五〇〇
六、雜費	二〇〇
計	一八、五〇〇

二、昭和九年度收支更正豫算及滿洲支部特別會計收支豫算、昭和十年度收支豫算、昭和十年度朝鮮支部支出豫算內譯

事務開始以來會員の激増と各種事業の進展に伴ひ經費亦頗る膨脹を告げたるを以て當初の收支を改訂し更正豫算を編成するの必要を認め昭和九年十一月三十日の第二回定時會員總會に之を提出して可決せられたるが、猶之と共に昭和

九年度滿洲支部特別會計收支豫算及び昭和十年度經費收支豫算も同總會を通過したるものにして次の如し。

昭和九年度經費收支更正豫算

科 目	收入之部	豫算金額	備 考
會 費		四六、五四〇・三八	〔本部〕 三五、八四〇・七九 滿洲支部 一〇、六九九・五九
補助金		五、〇〇〇・〇〇	〔滿鐵會社〕 三、〇〇〇・〇〇 拓務省 二、〇〇〇・〇〇
寄附金		三〇〇・〇〇	滿洲中央銀行
利子		二八〇・五八	〔本部〕 二八〇・〇〇 滿洲支部 五八
雜收入		二〇・〇〇	
計		五二、一四〇・九六	

支出之部

科 目	豫算金額	備 考
給與費	一四、六〇〇・〇〇	〔本部〕 一〇、六〇〇・〇〇 滿洲支部 四、〇〇〇・〇〇

旅費	六、五八一・八七	〔本部〕	五、〇〇〇・〇〇
通信運搬費	一、五八七・四〇	〔滿洲支部〕	一、五八一・八七
消耗品費	二、〇〇九・四九	〔本部〕	一、二〇〇・〇〇
什器費	一、九二六・〇〇	〔滿洲支部〕	一、七〇〇・〇〇
圖書費	五〇七・〇〇	〔本部〕	三〇九・四九
印刷費	七、八一五・八〇	〔滿洲支部〕	一、五〇〇・〇〇
會議費	八二五・七五	〔本部〕	四二六・〇〇
接待費	三、六四五・五八	〔滿洲支部〕	六、六〇〇・〇〇
雜費	三、七二一・三四	〔本部〕	一、二一五・八〇
創立費	七、四二〇・七三	〔滿洲支部〕	五〇〇・〇〇
豫備費	一五〇〇・〇〇	〔本部〕	三二五・七五
計	五二、一四〇・九六	〔本部〕	二、五〇〇・〇〇
		〔滿洲支部〕	一、一四五・五八
		〔本部〕	三、四〇〇・〇〇
		〔滿洲支部〕	六、一四〇・七九
		〔本部〕	一、二七九・九四

一〇八

昭和九年度滿洲支部特別會計收支豫算

收入之部

滿洲國政府補助金

一〇、〇〇〇

收入合計

一〇、〇〇〇

支出之部

新京連絡員費

一、二〇〇

滿文内外經濟情報刊行費

二、八〇〇

滿洲側理事總會出席費

一、〇〇〇

幹旋部費

五、〇〇〇

支出合計

一〇、〇〇〇

昭和十年度經費收支豫算

收入之部

科目

豫算金額

備考

會費

五、一四〇・〇〇

〔本部〕
〔滿洲支部〕
〔朝鮮支部〕

三四、四〇〇・〇〇
一二、〇〇〇・〇〇
五、〇〇〇・〇〇

補助金	七、〇〇〇・〇〇	〔滿鐵會社 拓務省〕	五、〇〇〇・〇〇
寄附金	三〇〇・〇〇	滿洲中央銀行	二、〇〇〇・〇〇
利子	二八〇・〇〇		
雜收入	二二〇・〇〇		
繰越金	一〇〇・〇〇		
計	五九、一〇〇・〇〇		
支出之部			
科 目	豫算金額	備 考	
給與費	二一、四七〇・〇〇 ^円	〔本 部 滿洲支部〕	一四、七五〇・〇〇 ^円
旅費	六、二〇〇・〇〇	〔本 部 滿洲支部〕	六、七二〇・〇〇
通信運搬費	二、一〇〇・〇〇	〔本 部 滿洲支部〕	五、〇〇〇・〇〇
消耗品費	二、一八〇・〇〇	〔本 部 滿洲支部〕	一、二〇〇・〇〇
什器費	一、三〇〇・〇〇	〔本 部 滿洲支部〕	一、五〇〇・〇〇
			六〇〇・〇〇
			一、七〇〇・〇〇
			四八〇・〇〇
			一、〇〇〇・〇〇
			三〇〇・〇〇

圖書費	九六〇・〇〇	〔本 部 滿洲支部〕	六〇〇・〇〇
印刷費	一〇、二〇〇・〇〇	〔本 部 滿洲支部〕	三六〇・〇〇
會議費	一、〇〇〇・〇〇	〔本 部 滿洲支部〕	九、〇〇〇・〇〇
接待費	三、七〇〇・〇〇	〔本 部 滿洲支部〕	一、二〇〇・〇〇
雜費	二、六四〇・〇〇	〔本 部 滿洲支部〕	五、〇〇〇・〇〇
朝鮮支部經費	四、〇〇〇・〇〇	〔本 部 滿洲支部〕	五、〇〇〇・〇〇
豫備費	三、三五〇・〇〇	〔本 部 滿洲支部〕	五、〇〇〇・〇〇
計	五九、一〇〇・〇〇	〔本 部 滿洲支部〕	五、〇〇〇・〇〇

昭和十年度朝鮮支部支出豫算内譯

昭和九年十一月三十日の第二回定期總會に於て承認を経たる昭和十年度收支豫算中に朝鮮支部經費支出豫算として金四千圓也を計上しあるが、之に基き朝鮮支部に於て編成したる支出豫算左の如し。

科 目	金額	科 目	金額
一、給與費	二一、二〇〇 ^円	一、旅費	二一、二〇〇 ^円

一、通信運搬費	五〇〇	一、消耗品費	一〇〇
一、什器費	六〇	一、圖書費	二〇
一、印刷費	三〇〇	一、會議費	一〇〇
一、接待費	一〇〇	一、雜費	一五〇
一、豫備費	四〇〇	計	四、〇〇〇

三、昭和九年度本部及滿洲支部收支決算

昭和十年三月末を以て締切りたる昭和九年度本部及滿洲支部收支決算（創立費を含む）並に貸借對照表は左の如く次の會員總會に於て承認を経べきものとす。

昭和九年度 自昭和八年十二月 至昭和十年三月 本部收支決算

科	目	決算額	豫算額	比較増(△減)	備考
第一款 會	費	三、三六〇・〇〇	三、八四〇・七九	一、四八〇・七九	會員豫定より増加せるによる
	收入之部				
	費				

豫算に比し收入の減少したるは豫算に計上したる拓務省よりの補助金なかりしによる
振替貯金局利子半箇年分翌年度に繰越されたるによる

第二款 補助金	三、〇〇〇・〇〇	五、〇〇〇・〇〇	△三、〇〇〇・〇〇
第三款 利子	一五〇・一五	二〇〇・〇〇	△ 一三九・八五
第四款 雜收	七・六	一〇・〇〇	△ 一二・七四
合 計	四、四三七・四一	四一、一四〇・七九	△ 七〇・三六

支出之部

科	目	決算額	豫算額	比較増(△減)	備考
第一款 給與費	一〇、七七一・六二	一〇、六〇〇・〇〇	△ 一六一・六二	旅行の回数少なりしに由る	
第二款 旅費	三、三五六・六	五、〇〇〇・〇〇	△一、六四三・四		
第三款 事務費	一〇、三七九・三	一一、五〇〇・〇〇	△一、一二〇・七		
第四款 通信運搬費	一、一〇一・四	一、二〇〇・〇〇	△ 九八・五七		
第五款 消耗品費	四七三・六	一、七〇〇・〇〇	△一、二二六・四	豫定の金額を要せざりしに由る	
第六款 什器費	一、九五五・〇	一、五〇〇・〇〇	△ 四九五・〇	電話購入の爲め豫算に不足を生じ豫備費より五〇〇圓を流用せり	
第七款 圖書費	四〇九・六	五〇〇・〇〇	△ 九〇・三九		
第八款 印刷費	六、三九五	六、六〇〇・〇〇	△ 三〇〇・四五	刊行物の發行少なりしに由る	

第四款 會議費	一〇三・八〇	五〇〇・〇〇	△ 三九七・二〇	豫定の金額を要せざりしに由る
第五款 接待費	三〇九・八一	二、五〇〇・〇〇	五七九・八一	諸歡迎會、總會懇親會等の爲め豫算に不足を生じ豫備費より一〇〇〇・〇〇圓を流用せり
第六款 雜費	一、五二・七三	三、四〇〇・〇〇	△ 二、三三八・二七	豫定の金額を要せざりしに由る
第七款 創立費	六、四〇・七九	六、四〇・〇〇	—	自昭和八年十二月至同九年三月事務所費を含む
第八款 豫備費	—	一、五〇〇・〇〇	△ 一、五〇〇・〇〇	
合計	三、四、五、四、七六	四、一、四、〇・七九	△ 六、五、五、〇・〇三	

收支比較

收入決算額	支出決算額	差引殘高	備考
四〇、四三七・四一	三四、五八四・七六	五、八五二・六五	次年度へ繰越

本部貸借對照表及財産目錄

貸借對照表 (昭和十年三月三十一日現在)

貸方 (負債)

種目	金額	備考
本年度剩餘金	五、八五二・六五	
殘存資金	一、五三六・〇〇	
合計	七、三八八・六五	

借方 (資産)

種目	金額	備考
特別當座預金	一、〇九四・九二	
振替貯金	四、七四二・七四	
現金	一四・九九	
電話	九三〇・〇〇	丸ノ内五〇六一番
什器圖書	六〇六・〇〇	
合計	七、三八八・六五	

財産目錄 (昭和十年三月三十一日現在)

物件名	價格	備考
特別當座預金	一、〇九四・九二	株式會社第一銀行丸ノ内支店
振替貯金	四、七四二・七四	
現金	一四・九九	
電話	九三〇・〇〇	丸ノ内五〇六一番
什器圖書	六〇六・〇〇	七九點
合計	七、三八八・六五	

昭和九年度 自昭和八年十二月 至昭和十年三月 滿洲支部收支決算

收入之部

科	目	決算額	豫算額	比較増(△減)	備考
第一款 會	費	一〇、四九・五	一〇、六九・五	△ 二〇・〇	會員豫定數に達せざるに由る
第二款 寄	附金	三〇〇・〇〇	三〇〇・〇〇	—	
第三款 利	子	五	五		

合計 10,410・17 11,000・17 △ 589・00

支出之部

科	目	決算額	豫算額	比較増(△減)	備考
第一款 給	與費	四、〇五五・〇〇	四、〇〇〇・〇〇	五五・〇〇	
第二款 旅	費	一、三七一・九	一、五八一・七	△ 二〇四・六	旅行の回数少なかりしに由る
第三款 事	務費	二、二一〇・二五	二、三三三・六九	△ 一一三・四四	
第一項 通信運搬費		四七・九四	三七・四〇	一〇・五四	
第二項 消耗品費		三〇〇・四一	三〇九・四九	△ 九・〇八	
第三項 什器費		四九九・五〇	四六六・〇〇	三三・五〇	
第四項 圖書費		九・〇〇	七・〇〇	二・〇〇	
第五項 印刷費		一、〇三三・三〇	一、二五八・〇	△ 二二四・七〇	印刷物の少なかりしに由る
第四款 會議費		四三〇・五五	三三五・七五	九四・八〇	
第五款 接待費		九三三・二	一、一四三・六	△ 二一〇・四	豫定の金額を要せざりしに由る
第六款 雜費		一〇九・〇〇	三二六・三	△ 二一七・三	同上

第七款創 立 費 一、三六・四 一、三六・四 〇
 合 計 一〇、四八・四 二、〇〇・七 △ 天二・七

收支比較

收入決算額 支出決算額 差引殘高 備 考
 一〇、七二〇・一七 一〇、四一八・四七 三〇一・七〇 次年度へ繰越

滿洲支部貸借對照表及財產目錄

貸借對照表 (昭和十年三月三十一日現在)

種 目	金 額	備 考
本年度剩餘金	三〇一・七〇	
殘存資金	四五一・〇〇	
合 計	七五二・七〇	

借 方 (資産)

種 目	金 額	備 考
振替貯金	三〇一・七〇	
電 話	三五〇・〇〇	本局九一七七番
什器、圖書	一〇一・〇〇	
合 計	七五二・七〇	

財產目錄 (昭和十年三月三十一日現在)

物 件 名	價 格	備 考
振替貯金	三〇一・七〇	
電 話	三五〇・〇〇	本局九一七七番
什器、圖書	一〇一・〇〇	一〇點
合 計	七五二・七〇	

康德元年度 自康德元年七月 至康德二年六月 滿洲支部特別會計收支決算

收支之部		支出之部		備考	
科	目	決算額	豫算額	比較増(△減)	備考
第一款	補助金	11,100.00	10,000.00	1,100.00	
第一款	雜收入	1,600.45		1,600.45	
	印刷物賣捌代廣告料	95.73		95.73	
第二項	商工名錄賣上代	701.04		701.04	
第三項	預金利息	33.6		33.6	
合	計	13,740.45	10,000.00	3,740.45	
科	目	決算額	豫算額	比較増(△減)	備考
第一款	新京駐在員費	300.00	1,100.00	△ 900.00	

第二款	内外經濟情報刊行費	3,620.00	2,800.00	820.00	
第一項	給與費	1,340.00			
第二項	旅費	90.00			
第三項	通信費	106.48			
第四項	消耗品費	126.33			
第五項	印刷費	1,877.60			
第六項	雜費	24.10			
第三款	滿洲側役員總會出席費	1,000.00	1,000.00		
第四款	幹部部費	5,129.20	5,000.00	129.20	
第一項	指導員派遣費	1,183.20			
第二項	商工名錄刊行費	3,946.00			
第五款	剩餘金	2,649.20			
合	計	13,740.45	10,000.00	3,740.45	

四、補助金に関する件

- (一) 昭和九年度南滿洲鐵道株式會社補助金
昭和九年一月十八日附を以て南滿洲鐵道株式會社に對し經費補助の件願ひ出で置きたる處五月八日昭和九年度分として金參千圓也受領せり。
- (二) 昭和十年度南滿洲鐵道株式會社補助金
昭和十年一月二十一日附を以て南滿洲鐵道株式會社に對し昭和十年度經費補助の件出願せり。

五、會計監査に關する件

本期中に於ける會計監査は中川監事に依り左の如く施行されたり。

- (一) 昭和九年十月三十日
- (二) 昭和九年十一月二十八日
- (三) 昭和十年一月三十日
- (四) 昭和十年二月十二日
- (五) 昭和十年三月十三日

滿洲支部

第一概 說

滿洲支部に於ては會議を開きたること四回、議事件數二十五件、此内支部決議を以て建議せるもの二件、本部に審議方移牒せるもの並びに本部移牒の事項にして支部審議の上本部に廻付善處方依頼せるもの十三件、理事會研究報告として本部に廻付せる參考資料一件にして、事業として第一次、第二次赴日商工視察團を主催せること、滿文雜誌「内外經濟情報」滿洲國商工名録」の刊行なりとす。今その主なるものを擧ぐれば、

- (一) 北滿農民救濟對策建議
- (二) 小麥粉優良種子頒布請願
- (三) 滿洲國官吏消費組合問題の檢討

等なり、就中小麥粉優良種子頒布に關しては滿洲國政府當局の政策に合致する事を得て優良小麥粉種子の無料頒布を、九年度に於て約六千三百石、十年度に於ては更に五千石を増加し一萬千三百石の頒布量を示すに至りたることは今秋收穫期に於て總計二十六萬石の收穫量を豫想され今後數年を出でざる裡に滿洲國重要農産物たるべく併せて現下の農民救濟對策の優たるものと認めらるべく、官吏消費組合問題に於ては合理的對策の着々實現せられつゝあるは一般に容認

される所なり。更に日滿産業經濟に關する實相紹介を目的とし昭和十年二月滿文雜誌「内外經濟情報」を創刊せる事は滿洲商工業者は勿論一般國民に對して經濟事情の紹介、普及に大いなる寄與をなせり。次いで康徳二年三月日滿經濟關係者の取引上の指針として「滿洲國商工名簿」を刊行し、更に滿洲商工業者の對日認識を深め、經濟提携の一端に資せしむるために主催せる第一次、第二次赴日視察團は參加延人員四十三名多大の効果を收めたり。會員狀況は左表に見る如く會員數三・七倍強、會費負擔口數二・七倍強の増加を示せり。

會員	九年四月現在		十年三月末現在		比較増減(△印減)	
	件數	口數	件數	口數	口數	件數
滿洲支部會員	九七	一九七	三六三	五三四	二六六	三三七
内譯 日本人側	三七	九一	一三七	二二九	一〇〇	一三八
滿洲國側	六〇	一〇六	二二六	三〇五	一六六	一九九

尙、十年度滿洲支部豫算は經常部一萬五千三百圓なりしが特別會計國幣一萬圓を通算し二萬五千三百圓を示し之を創設當初の八千五百圓が會務の増進に依りて一萬一千圓に更正されたるに比すれば多大の増加なり。

第二會議

第一回理事會

昭和九年一月十一日
於新京やまとホテル

來賓

滿洲國實業部工商司長 孫 激殿 滿洲國實業部工商司商務科長 崔 模殿
同實業部工商司工務科長 井 租 平殿 同 實業部工商司囑託 阿 部 管 一殿

出席者

副會長	哈爾濱道外商會副會長	李 明	遠氏
副會長	大連市商會會長	張 本	政氏
常務理事	大連商工會議所會頭	高 田 友	吉氏
同	營口紡紗廠總經理	陳 楚	材氏
理 事	奉天全省商會聯合會會長	方 煜	恩氏
同	吉林全省商會聯合會會長	范 象	魁氏
同	齊々哈爾商會會長	王 玉	堂氏

同	新京市商會會長	王荆山氏
同	大連市商會副會長	邵慎亭氏
同	哈爾濱航務局經理	王樹柵氏
同	哈爾濱道裡商會會長	唐紹臣氏
同	熱河省灤平縣商會會長	王文輔氏
同	奉天商工會議所會頭	庵谷忱氏
同	哈爾濱日本商工會議所會頭	加藤明氏
同	新京商工會議所會頭	石崎廣治郎氏
同	大連西崗子商會會長	龐睦堂氏
監事		

報告事項

昭和八年十一月二十四日東京商工會議所にて開催せる常任理事打合會に於て左の申合ありたることを報告せり。

- 一、昭和八年十二月一日より本協會の事務を開始すること
- 二、滿洲支部の事務並に豫算運用は高田常務理事に一任すること
- 三、本部、滿洲支部間事務上の連絡方法に關する件
- 四、會費口數割當に關する件

五、評議員選任に關する件

決議事項

一、評議員選任の件

高田常務理事より會則第七條により評議員は會員總會に於て選舉する規定なるも、創立當時に於ては便法を設け會長より指名委囑することとし、其の數は大體日本内地側四十五名、滿洲側四十五名程度を以て相當として、滿洲側は日本人十五名乃至二十名、滿洲國人二十五名乃至三十五名位の割合としては如何との提議をなしたるに對し一同賛成結局左の通り決定せり。

大連商工會議所會頭	高田友吉氏	奉天商工會議所會頭	庵谷忱氏
新京商工會議所會頭	石崎廣治郎氏	安東商工會議所會頭	瀨之口藤太郎氏
鐵嶺商工會議所會頭	紀藤義也氏	營口商工會議所會頭	今井榮量氏
哈爾濱日本商工會議所會頭	加藤明氏	開原實業會會頭	川島定兵衛氏
撫順實業協會會長	田中廣吉氏	遼陽實業會會長	中村信氏
旅順商工會會長	伴東氏	鞍山實業協會會長	加藤政人氏
四平街市民協會會長代理	鶴見次世氏	吉林商工會會長	鈴木良太氏
大連取引所所長	小林和介氏	大連汽船株式會社社長	増田義男氏

國際運輸株式會社 專務取締役	築島信司氏	南滿洲電氣株式會社 專務取締役	入江正太郎氏
滿洲化學工業株式會社 社長	斯波忠三郎氏	滿洲電信電話株式會社 總裁	山内靜夫氏
株式會社奉天造船廠 社長	黑崎延次郎氏	滿洲航空株式會社 社長	榮源氏
東亞勸業株式會社 社長	向坊盛一郎氏	哈爾濱交易所 理事長	陳式銅氏
奉天市商會	喬蓋鄉氏	營口市商會	王季梁氏
安東總商會	孫榮明氏	蓋平縣商會	侯顯模氏
錦縣商會	魏鐸氏	吉林總商會	王遵實氏
敦化縣商會		雙城縣商會	
延吉縣商會	段明德氏	哈爾濱道裡商會	穆文煥氏
哈爾濱道外商會	孟毅民氏	一面坡商會	徐華山氏
海林站商會	滕興茂氏	黑龍江商會聯合會	張書山氏
克山縣商會	王桂才氏	海倫縣商會	張樹林氏
新京市商會	史維翰氏	朝陽縣商會	
凌源縣商會		承德縣商會	
興安東分省		興安北分省	

奉天日本站商會
旅順商務會

遼陽日本站商務會

二、入會並に持口數に關する件

高田常務理事より本協會員としての商工會議所の會費負擔割合は創立時當の申合せ通り引受られたき旨希望し、猶滿洲國側商、工會の入會は會則第五條の規定に基きて滿洲國實業部の許可を要するにより、其の入會及持口數の斡旋決定は總て之を實業部に委囑することに決定。

三、協會創立披露宴に關する件

同夜(一月十一日)開催の披露宴の順序等に關し協議決定する所あり。

四、會務の振興に關する件

種々協議したるが更に研究の上適切なる方法を講ずることに決定。

五、滿洲インフレーション政策に關する件

滿洲國は中央銀行の營業方針によりデフレーションに陥りつゝあるが、此際世界的インフレーションの大勢に順應して通貨價值を下落せしめ一般物價特に水産物の定價をして昂騰せしむると共に農民負擔の輕減を圖ること。

六、大拓殖金融機關設置に關する件

滿洲國に於ける産業開發の先驅をなすものは金融機關の整備と資金の流入なるを以て、茲に資本金二億五千萬圓程度

の大拓殖金融機關を設置し、政府保證の下に日滿兩國の資本を吸集し、右金融機關に資本金の三倍程度の割増金付債券の發行を許し、之れに廣く滿洲國の産業開發資金を求むること。

七、小麥種子無料頒布に關する件

近く播種期を控へて、吉、黑兩省の農民は小麥種子の缺乏を訴へ、播種用として約八萬噸を要するにも拘らず現在農民の貯藏は四萬噸に過ぎず、故に此の不足分を實業部より農民に配布されべきこと。右の内「五」及「六」の二件は支部署の提案なるが之を東京本部に移牒し適當なる措置を講ぜらるゝ様依頼し、「七」は滿洲支部より直接滿洲國實業部に建議することに決定。

第二回理事會

昭和九年四月十六日
於大連商工會議所

來賓

滿洲國實業部工務科長	長井租平殿	關東廳商工課長	中山徳二殿
理事官	石原二郎殿	大連市産業課長	丸山郁之助殿
大連商工會議所副會頭	瓜谷長造殿	大連商工會議所副會頭	築島信司殿
滿鐵商工課々員	野田早苗殿		

出席者

副會長	大連市商會會長	張本政氏
副會長	哈爾濱道外商會副會長	李明遠氏
常務理事	大連商工會議所會頭	高田友吉氏
理事	大連市商會副會長	邵慎亭氏
同	新京市商會會長	王荆山氏
同	哈爾濱道裡商會會長	唐紹臣氏
同	新京商工會議所會頭	石崎廣治郎氏
同	哈爾濱日本商工會議所會頭	加藤明氏
同	大連西崗子商會會長	龐睦堂氏
監事	北滿農民代表	劉漢璽氏
	北滿經濟代表	穆文煥氏

決議事項

- 一、北滿大豆市價暴落對策に關する件
 - 二、滿洲國の通貨に關する件
- 右二件に關して慎重審議したる處兩案とも猶ほ詳細調査の必要あるを以て本部篠崎常任幹事に於て更に現地視察の上

對策を練り内地歸還後適當に處理することに決定。

第三回理事會

昭和十年二月二十五、六日
於奉天市商會

決議事項

- 一、日滿通貨統制に關し兩國政府に要望の件（第二回總會よりの委任事項）
本議案は重要問題なるを以て即決を保留し更に慎重研究することに決定。
- 二、滿洲國に於ける鐵道運賃統制に關する件（第二回總會よりの委任事項）
本議案は提出者の主唱理由の精神を保存し最近の情勢に添ふ數次の主旨を追加したる上賛成することとし、更に本部に移牒することに決定。

北滿鐵道の買収も近きに在り之が實現後に於ける滿洲の鐵道運賃政策は相當重大なる經濟的影響を齎らすものと思惟さる、仍て滿洲に於ける鐵道運賃政策は日滿通商發展並に全滿洲産業開拓等の全般的見地に立脚すると共に既存主要都市の經濟的地位に悪影響を及ぼさざる事に留意して諸鐵道運賃率を統制せられんことを要望す

- 三、滿洲國私設鐵道助成法制定方要望の件（第二回總會よりの委任事項）
右は滿場一致之を賛成可決し、直に本部に移牒し適當なる處理方を依頼することに決定。
- 四、興業金融機關設置要望に關する件（第二回總會よりの委任事項）

右議案も亦滿場一致之を賛成可決、直に本部に移牒し其の善處方を依頼することに決定。

- 五、滿洲移住獎勵に關する件（第二回總會よりの委任事項）
右議案も滿場一致可決、之を本部に移牒し善處方を依頼することに決定。
- 六、滿洲國麥酒輸入税引下に關する件（本部よりの移牒事項）
右は慎重審議したる結果、滿洲に於ける麥酒醸造業を保護するの必要あるを認むるを以て滿場一致之に賛成し難しと云ふに歸結、但し石崎理事は賛否を保留する旨申出あり。而して之を本部に移牒することに決定。

- 七、滿洲國內陸税關設置に關する件（本部よりの移牒事項）
本議案は滿場一致之を可決、猶本理事會の決議として次項を追加することに決定、而して之を本部に移牒することとせり。

保税輸送の實施促進と主要經濟都市に於ける保税倉庫の設立を急務とし之を要望す

- 八、石鹼輸入税引下に關する件（本部よりの移牒事項）
本案件は利害關係に就き更に検討を加ふるの必要あるを認め賛否を保留することに決定、之を本部に回示することとせり。

研究題目

- 一、滿洲國官吏消費組合對策に關する研究報告、本研究報告は參考資料として本部に廻附し更に慎重なる研究を委囑す

ることに決定。

但し新京石崎理事は本日の支部理事員に於て其態度を決定することなく繼續検討することを主張せり。」

右對策研究報告の結論要項（即ち現存消費組合に對する制限要項）を示せば左の如し。

- 一、横斷的組織並に物資配給を禁止すること
- 二、配給物資の品種品目は第一義的生活必需品に限定すること
- 三、組合員以外の利用を嚴重に防止する規定を設けること
- 四、組合員各自の購買額限度を制定すること

第一回評議員會

昭和九年八月二十二日
於大連商工會議所

來賓

滿鐵鐵道部次長 山口十助殿

滿鐵地方部商工課 毛利元靖殿

關東廳商工課 森岡謹一郎殿

出席者

南滿洲電氣株式會社 入江正太郎氏

撫順實業會會長 田中廣吉氏

奉天商工會議所會頭 石田武亥氏

哈爾濱商工會議所會頭 加藤明氏

吉林全省聯合會會長	范象魁氏	國際運輸株式會社	築島信司氏
滿洲製麻株式會社	井上輝夫氏	大連市商會會長	張本政氏
專務取締役	龐陸堂氏	安東商工會議所會頭	瀨之口藤太郎氏
大連西崗市商會會長	伴東氏	鞍山實業協會會長	加藤政人氏
旅順商工協會會長	松崎義造氏	日滿製粉株式會社	中澤正治氏
鐵嶺商工會議所理事	瓜谷長造氏	專務取締役	邵慎亭氏
大連商工會議所副會頭	艾喜晨氏	大連市商會副會長	李明遠氏
凌源縣商會會長	穆文煥氏	哈爾濱道外商會副會長	李王樞氏
哈爾濱道裡商會會長	侯顯模氏	奉天日本站商會會長	李翰三氏
蓋平縣商會會長	高田友吉氏	營口總商會	李翰三氏
大連商工會議所會頭	長永義正氏	常任幹事	篠崎嘉郎氏

決議事項

一、鐵道運賃低減に關する件

慎重審議の結果、滿鐵運賃は高率に相違なきも今日其の負擔に堪へ得られざる程度のものにはあらず、然れども委任經營鐵道の運賃は甚しく高率にして最近多少の輕減を見たりと雖も尙割高なるを以て、之を金圓に換算して滿鐵線と

同程度に引下げ且つ遠距離遞減法を採用するの必要なるを認む。唯右要望に即せしめんとせば滿鐵の現状に於ては是れ以上輕減の餘地なきものと思考せらるゝが故に、此の點に就ては政府に於ても滿鐵自體の收支状態を再検討し、一方滿鐵が苦しみつゝある各種の義務負擔を輕減せしむる等の方法を講ずる以外現在に於ては運賃低減の途なきものと思惟せらるゝにより、本協會としては滿洲全體の鐵道運賃を統制して滿鐵が今日實施しつゝある新京以南の運賃率程度に改正すると同時に遠距離遞減法を實施するを以て適當と認むる次第にして、右案件は之を本部に移牒し其の善處方を依頼することに決定。

二、滿洲國關稅率改正に關する件

滿洲國の現行關稅率は舊支那時代のものを其のまゝ踏襲し其の後物價及び各種事情の激變ありたるにも拘らず依然として改正を加へざるを以て從量、從價稅共に不合理の點頗る多し、故に先づ輸出稅は全面的に解除し、輸入稅は内國稅と比較して夫々改訂を加ふることの急務なるを認むるものなるが、本案件も亦之を本部に移牒し適當なる措置を講ずることを依頼するに決定。

第三 事業

一、商工視察團

(一)第一次赴日商工視察團

支部主催を以て長崎博覽會視察團を企畫し早川囑託附添ひにて昭和九年四月二十日出發、長崎博覽會を始め九州各地に於ける工場其他を視察し同二十九日歸滿せり。

(二)第二次赴日商工視察團

支部主催を以て第二次日本内地商工視察團を企て、長永常任幹事は先發し高田常務理事、早川囑託附添ひにて一行二十七名昭和九年十一月十五日奉天出發、門司、神戸、大阪、奈良、宇治山田、名古屋、東京、京都、瀬戸内海其他に於ける商工視察並に風光觀賞を爲し、無事旅程を了つて十二月八日大連着歸滿せり。

二、刊行物の頒布

(一)日本印象記

昭和九年十一月支部主催第二次赴日商工視察團の歸滿後各團員の視察感想録を蒐め「日本印象記」と題して一千部を上梓し各方面へ頒布せり。

(二)滿文内外經濟情報

昭和十年二月九日時事掲載定期刊行物發行認可あり、同十五日創刊號を發行し、引續き毎月十五日を發行日として刊行中なり。同情報は毎號二千部を印刷し滿洲側市商會を中心に無料頒布を爲す。

(三) 滿洲國人商工名錄

昭和九年十一月編纂に着手、同十年三月末日之が上梓を滿洲日報社に命じたり。同名録は菊版五百餘頁、一千部を印刷に付し希望者に有料頒布の豫定なり。

三、陳 情

本期に於て支部が評議員會、理事會の決議に依り文書を以て政府當局に陳情せる事項左の如し。

(一) 優良小麥種子無料頒布方請願に關する件

本件は昭和九年一月十一日新京に開催せる滿洲支部第一回理事會に於て優良小麥種子無料頒布方を滿洲國實業部に對して恊望することを決議し、昭和九年二月十四日附を以て左の陳情書を滿洲國實業部大臣宛提出せり。

優良小麥種子無料頒布方陳情書

滿洲國に於ける小麥は重要特産物の一にして小麥粉は滿洲國人の主要食料品たるのみならず滿洲産小麥を原料として依存する多數の製粉工場を國內に擁するものに御座候
然るに近年外國粉に壓倒せられ國內製粉業の窮地に陥れるは滿洲産小麥が能く其の需要を充し得ざるに一因を有するに非ずやと思惟仕候滿洲國に於ける重要特産物の増産、品種の改良、主要工業の振興等の見地よりして小麥作の獎勵、増收、改良の要あるは茲に云々するの要なき次第に御座候聞くところに據れば本年は春耕期を目捷に控へ農家は貯藏

中の小麥の優良なるものは多く自家用に供し播種用小麥種子は粗悪なるもののみを殘存する由に御座候斯の如き實情に候はゞ本年度の小麥作も一層悲觀さるべく延いては外國小麥粉の跋扈を助長せしむるの事態を醸すに至るべきや杞憂仕候

希くば實情右の如くに候へば優良小麥種子を小麥耕作農家に無料御頒布の上滿洲國重要特産物の一たる小麥の増收、改良を御企圖被下候はゞ農家の寧福は勿論順天安民の國是にも寄與するところ甚大なるものあるべしと被存茲に優良小麥種子無料頒布方を恊望申上ぐる次第に御座候
日滿實業協會滿洲支部第一回理事會の決議を以て右陳情仕候也

第四 庶 務

一、事務開始

昭和八年十二月一日、滿洲支部事務所を大連商工會議所内に設置し事務を開始せり。

二、文書收發件數

昭和八年十二月一日事務開始以來同十年三月三十一日に至る期間即ち支部開設より昭和九年度末に至る迄の文書收發件數左の如し。

受 信 一、一二三件
 發 信 九〇二件

三、祝辭等に關する件

皇太子殿下御降誕に對し、滿洲支部は昭和九年一月十一日理事會の決議を以て賀表を奉呈せり。

四、弔詞、見舞等に關する件

(一)昭和九年七月五日幹事大垣鶴藏氏(新京商工會議所理事)逝去に付弔電發送並に花輪贈呈。

(二)昭和九年八月二十日安東水害に對し安東商工會議所、安東商會其他に見舞狀を發送せり。

五、出張に關する件

(一)關東軍司令部、滿洲國政府當局と打合せの爲長永常任幹事は昭和八年十二月七日新京に出張同九日歸任せり。

(二)高田常務理事は昭和八年十二月十九日新京に出張同二十一日歸任せり。

(三)滿洲支部第一回理事會並に披露宴に出席の爲高田常務理事、長永常任幹事、早川囑託は昭和九年一月九日新京に出張し同十三日歸任せり。

(四)高田常務理事は支部要務を帶び昭和九年二月八日新京に出張同十一日歸任せり。

(五)滿洲支部主催長崎博覽會視察團案内の爲早川囑託は昭和九年四月二十日九州地方に出張し同二十九日歸任せり。

(六)會員募集其他の用務を帶び長永常任幹事は昭和九年六月二十一日新京、哈爾濱、吉林に出張し同二十八日歸任せり。

り。

(七)會員募集並に滿洲國政府實業部との間に打合せを爲す爲長永常任幹事は昭和九年七月三十日新京、奉天、撫順、安東、鞍山に出張し八月五日歸任せり。

(八)會員募集の爲早川囑託は昭和九年八月一日奉天、撫順、安東、鞍山、營口に出張し同七日歸任せり。

(九)滿洲國政府補助金の件に關し長永常任幹事は昭和九年九月六日新京に出張し同八日歸任せり。

(一〇)滿洲國商工名錄編纂並に視察團員募集其他の要件を帶び長永常任幹事は昭和九年十月二十四日奉天、新京に出張し同二十七日歸任せり。

(一一)滿洲國商工名錄編纂に關し早川囑託は關係各方面と打合の爲昭和九年十月二十四日奉天、新京、吉林、哈爾濱に出張し十一月一日歸任せり。

(一二)昭和九年十一月三十日東京に開催の總會出席を兼ね本、支部主催内地商工視察團案内の爲高田常務理事は十一月十五日、長永常任幹事は同十日、早川囑託は同十四日出發、東京、名古屋、京都、大阪其他に出張し十二月八日歸任せり。

役員 (うろは順)

昭和十年三月末現在本協會の役員左の如し。

會長

日本商工會議所會頭 男 爵 郷 誠 之 助

副會長

大連市商會會長 張 本 政

哈爾濱道外商會副會長 李 明 遠

日本興業銀行總裁 結 城 豐 太 郎

大阪商工會議所會頭 森 平 兵 衛

理事

門司商工會議所會頭	出光 佐三	奉天商工會議所會頭	石田 武亥
新京商工會議所會頭	石崎 廣治郎	吉林全省商會聯合會長	范 象 魁
奉天全省商會聯合會長	方 煜 恩	哈爾濱道裡商會會長	唐 紹 臣
新京市商會會長	王 荆 山	熱河省灤平縣商會會長	王 文 輔
齊々哈爾商會會長	王 玉 堂	哈爾濱航務局經理	王 樹 柵
名古屋商工會議所會頭	岡 谷 惣 助	神戶商工會議所會頭	岡 崎 忠 雄
博多商工會議所會頭	太 田 勘 太郎	哈爾濱日本商工會議所會頭	加 藤 明
朝鮮商工會議所會頭	賀 田 直 治	大阪商工會議所副會頭	片 岡 安
京都商工會議所會頭	田 中 博	大連商工會議所會頭	高 田 友 吉
大倉商事株式會社社長	玉 木 誠 次郎	東京商工會議所副會頭	中 野 金 次郎
三井物産株式會社代表取締役	南 條 金 雄	廣島商工會議所會頭	山 縣 元 兵衛
橫濱商工會議所會頭	有 吉 忠 一	大同セメント株式會社長	淺 野 良 三

常務理事

三菱商事株式會社取締役會長	三宅川 百太郎	富士瓦斯紡績株式會社專務取締役	鹿 村 美 久
新潟商工會議所會頭	白 勢 量 作	富士興業株式會社社長	澁 澤 正 雄
大連市商會副會長	邵 慎 亭	營口紡績廠總經理	陳 楚 材
	興安省林西縣商會會長		京城商工會議所副會頭

監事

營口紡績廠總經理	陳 楚 材	朝鮮商工會議所會頭	賀 田 直 治
大阪商工會議所副會頭	片 岡 安	大連商工會議所會頭	高 田 友 吉
東京商工會議所副會頭	中 野 金 次郎		

評議員

大連西園子商會會長	龐 陸 堂	日滿亞麻紡績株式會社取締役會長	中 川 正 左
-----------	-------	-----------------	---------

門司商工會議所會頭	出光 佐三	奉天商工會議所會頭	石田 武亥
新京商工會議所會頭	石崎 廣治郎	營口商工會議所會頭	今井 榮量
大日本鹽業株式會社 專務 取締役	一宮 銀生	滿洲セメント株式會社 取 締 役	伊藤 精七
南滿洲電氣株式會社 專務 取締役	入江 正太郎	大信洋行專務取締役	石田 榮造
滿洲製麻株式會社 專務 取 締 役	井上 輝夫	朝鮮火災海上保險會社 長	石川 登盛
旅順商工協會會長	安 永 登	吉林全省商會聯合會會長	范 象 魁
日本航空株式會社社長	原 邦 造	日本石油株式會社社長	橋本 圭三郎
奉天市商會會長	方 煜 恩	裕泰號(吉林)代表者	堀井 覺太郎
哈爾濱道裡商會會董	唐 紹 臣	豐田紡織株式會社社長	豐田 利三郎
株式會社高尾鐵工所 代表 取 締 役	土岐 市太郎	大連市商會會長	張 本 政
黑龍江省商會聯合會會長	張 書 山	海倫縣商會會長	張 樹 林
奉天遼陽縣商會會長	陳 德 榮	營口紡紗廠總經理	陳 楚 材
大連西崗市商會會長	龐 睦 堂	哈爾濱道外商會副會長	李 明 遠
双城縣商會會長	李 遇 文	奉天日本站商會會長	李 王 樞

黑龍江省安達縣商會會長	劉 子 明	哈爾濱道裡商會會長	穆 文 煥
函館商工會議所會頭	岡本 康太郎	札幌商工會議所會頭	大瀧 甚太郎
名古屋商工會議所會頭	岡 谷 惣助	神戶商工會議所會頭	岡 崎 忠 雄
博多商工會議所會頭	太田 勤太郎	齊々哈爾商會會長	王 玉 堂
哈爾濱航務局經理	王 樹 枏	熱河省灤平縣商會會長	王 文 輔
營口總商會會長	王 李 梁	克山縣商會會長	王 桂 才
熱河省平泉縣商會會長	王 靖 山	住友合資會社總理事	小 倉 正 恒
日本鋼管株式會社社長	大川 平三郎	株式會社大林組社長	大 林 義 雄
大日本麥酒株式會社社長	大橋 新太郎	貴族院 議員 男爵	大 藏 公 望
昭和祥支配人	大 貫 與 十	新京裕昌源總經理	王 荆 山
大阪商工會議所副會頭	片 岡 安	朝鮮商工會議所會頭	賀 田 直 治
哈爾濱日本商工會議所 會 頭	加 藤 明	釜山商工會議所會頭	香 椎 源 太 郎
開原實業會會長	川 島 定 兵 衛	鞍山實業協會會長	加 藤 政 人
朝鮮銀行總裁	加藤 敬三郎	日本郵船株式會社社長	各 務 謙 吉

東亞煙草株式會社社長	金光庸夫	株式會社加藤商店社長	加藤勝太郎
京都商工會議所會頭	田中博	大連商工會議所會頭	高田友吉
撫順實業協會會長	田中廣吉	北滿電氣株式會社 專務取締役	高橋貫一
東洋拓殖株式會社總裁	高山長幸	中日實業株式會社副總裁	高木陸郎
大日本人造肥料株式會社 社長	田中榮八郎	大倉商事株式會社社長	玉木誠次郎
臺灣製糖株式會社社長	武智直道	東洋拓殖會社京城支社 理事	田淵勳
朝鮮運送株式會社社長	竹島銀太郎	朝鮮信託株式會社社長	谷多喜磨
安東總商會會長	孫榮明	東京商工會議所副會頭	鶴見左吉雄
四平街市民協會會長代理	鶴見次世	鐘淵紡績株式會社社長	津田信吾
國際運輸株式會社 專務取締役	築島信司	東京商工會議所副會頭	中野金次郎
金澤商工會議所會頭	中島德太郎	遼陽實業會會長	中村信
日本製鐵株式會社社長	中井勵作	三井物産株式會社 代表取締役	南條金雄
日滿亞麻紡織株式會社 取締役會長	中川正左	古河電氣工業株式會社 社長	中川末吉
日滿製粉株式會社 專務取締役	中澤正治	中山太陽堂社長	中山太一

大阪商船株式會社社長	村田省藏	奉天兵工廠廠長	村瀨文雄
滿洲銀行頭取	村井啓太郎	東亞勸業株式會社社長	向坊盛一郎
大連商工會議所副會頭	瓜谷長造	吉林總商會	干遵實
三菱銀行取締役會長	串田萬藏	日魯漁業株式會社社長	窪田四郎
廣島商工會議所會頭	山縣元兵衛	東洋レヨン株式會社 取締役會長	安川雄之助
第一生命保險相互會社 社長	矢野恒太	朝鮮金融組合聯合會會長	矢鍋永三郎
滿洲電信電話株式會社 總裁	山內靜夫	正隆銀行常務取締役	楊井勇三
鴨綠江探木公司理事長	八木元八	東邦電力株式會社社長	松永安左衛門
朝鮮銀行理事	松原純一	朝鮮米倉會社社長	松井房次郎
大連汽船株式會社 專務取締役	增田義男	日清燐寸株式會社社長	前田伊織
王子製紙株式會社社長	藤原銀次郎	大日本製糖株式會社社長	藤山愛一郎
大連錢鈔信託株式會社 專務取締役	古澤丈作	日本、東京商工 會議所會頭 男爵	郷誠之助
蓋平縣商會會長	侯顯模	橫濱正金銀行頭取	兒玉謙次
滿洲航空株式會社副社長	兒玉常雄	神戸商工會議所副會頭	榎並充造

橫濱商工會議所會頭	有吉忠一	大阪商工會議所副會頭	安宅彌吉
名古屋商工會議所副會頭	青木鎌太郎	大同セメント株式會社長	淺野良三
日本產業株式會社社長	鮎川義介	朝鮮殖産銀行頭取	有賀光豐
大連株式商品取引所理事	櫻内辰郎	鐵嶺商工會議所會頭	紀藤義也
奉天市商會	喬蓋郷	錦縣商會會長	魏鐸
三井銀行取締役會長	菊本直次郎	日本興業銀行總裁	結城豐太郎
日清紡績株式會社社長	宮島清次郎	三菱商事株式會社取締役會長	三宅川百太郎
新潟商工會議所會頭	白勢量作	大連市商會副會長	邵慎亭
新京市商會會長	史維翰	奉天省海城縣商會會長	辛子香
吉林省五常縣商會會長	朱福三	三菱重工株式會社取締役會長	斯波孝四郎
大倉鐵業株式會社取締役會長	島岡亮太郎	富士瓦斯紡績株式會社專務取締役	鹿村義久
日清製粉株式會社社長	正田貞一郎	安田保善社理事長 男爵	四條隆英
富士興業株式會社社長	澁澤正雄	合資會社清水組代表社員	清水釘吉
南滿洲瓦斯株式會社專務取締役	白濱多次郎		

日本銀行總裁	土方久徵	大阪商工會議所會頭	森平兵衛
朝鮮郵船會社社長	森辨次郎	哈爾濱道外商會會長	孟毅民
安東商工會議所會頭	瀨之口藤太郎	小樽商工會議所會頭	杉江仙次郎
豐年製油株式會社社長	杉山金太郎		朝陽縣商會會長
	凌源縣商會會長		敦化縣商會會長
	興安省林西縣商會會長		

幹事

廣島商工會議所理事	橋本種次郎	日本商工會議所副理事	依田信太郎
門司商工會議所理事	田中次郎	大阪商工會議所理事	高柳松一郎
橫濱商工會議所理事	園田寬	新潟商工會議所理事	塚野俊郎
哈爾濱日本商工會議所理事	中西仁三	博多商工會議所理事	長田義彥
神戸商工會議所理事	福本義亮	奉天商工會議所理事	兒玉翠靜
新京商工會議所理事	小林九郎	東京商工會議所理事	木村増太郎

名古屋商工會議所理事

三浦一

京都商工會議所理事

森口繁治

常任幹事

朝鮮商工會議所理事

伊藤正愨

滿洲大連商工會議所理事

長永義正

東京(專任)本部

篠崎嘉郎

一五二

昭和十年十二月十五日印刷
昭和十年十二月二十日發行

東京市麴町區丸ノ内三丁目十四番地

日滿實業協會

電話丸ノ内(23)五〇六一番
振替口座東京四五八〇二番

